

九〇年



保土ヶ谷区制90周年記念誌

つながり

〈ほどがやの人・まち・歴史〉



保土ヶ谷区制90周年記念誌 九〇年 つながりほどがやの人・まち・歴史



保土ヶ谷区制90周年記念事業実行委員会



横浜市保土ヶ谷区役所

保土ヶ谷区制90周年記念誌

九〇年

つながり

〈ほどがやの人・まち・歴史〉



保土ヶ谷区制 90 周年記念事業実行委員会 会長

畑尻 明

保土ヶ谷区が誕生してから、本年10月1日で90周年を迎えました。私たちが暮らす保土ヶ谷区は、鶴見区、神奈川区、中区、磯子区とともに横浜市の区制第1号としてスタートしました。

この慶びを区民の皆さまと分かち合うため、区制90周年記念事業の企画として、ほどがやのまちの変遷や20地区連合町内会での取組等を写真で紹介した「90年つながりくほどがやの人・まち・歴史」が発刊されることとなりました。

昔の写真を見ると懐かしい記憶がよみがえり、改めて保土ヶ谷の多様な歩みに感嘆する思いです。また、記念誌にも収録してある対談にも参加させていただき、自分にとつても良い記念になりました。

この記念誌が、まちを愛し、地域の連帯を強め、一人ひとりがより生きがいを感じるまちづくりにつながるものと信じています。

末筆ながら、区制90周年記念事業を実施するにあたり、多大なご協力をいただいております。区民・各種団体・企業の皆さまに心から御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。



保土ヶ谷区 区長

菅井忠彦

昭和2年10月1日、横浜市に区制が施行され、保土ヶ谷区が誕生してから90年が経ちました。この日を20万区民の皆様と迎えられることは、誠に慶ばしい限りです。

この度、区制90周年の記念事業のひとつとして、記念誌「90年つながりくほどがやの人・まち・歴史」を発刊する運びとなりました。この記念誌には、まちの移り変わりや各地区連合町内会の10年間の歩みなどが掲載されております。記念誌に掲載されている写真や記事を見ておられますと、保土ヶ谷の歴史を感じるとともに、地域での皆様の活動に改めて感謝する気持ちでいっぱいになります。

この記念誌の発刊をきっかけとして、区民の皆様と保土ヶ谷のこれまでの歩みを振り返り、歴史と伝統を大切にしながら、「いつまでも住み続けたいまち、ほどがや」の実現に向け、より一層取組を進めていきたいと考えています。

10年後は保土ヶ谷区制100周年という大きな節目の年となります。受け継がれてきた自然や文化、地域のつながりを希望あふれる未来につなげていきましょう。

末筆ながら、この発刊事業に御尽力をいただきました編集委員をはじめ関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

目次

発刊にあたって 2

【対談】倍賞千恵子 × 小六禮次郎 × 畑尻会長 × 菅井区長 4

保土ヶ谷区の歴史 8

【対談】石塚英彦 × KAI × 桜丘高校校長 24

各地区10年の歩み

保土ヶ谷地区連合自治会 28

保土ヶ谷南部・中地区連合自治会 30

保土ヶ谷東部地区連合自治会 34

保土ヶ谷西部連合自治会 36

新桜ヶ丘地区連合自治会 38

権太坂境木地区連合自治会 40

岩井町原連合町内会 42

岩間地区連合町内会 44

中央連合町内会 46

中央東部地区連合町内会 48

和田・釜台地区連合町内会 50

上星川地区連合町内会 52

常盤台地区連合町内会 54

川島東部連合町内会 56

仏向地区連合町内会 58

川島原地区連合会 60

西谷連合町会 62

上新地区連合自治会 64

上菅田地区連合自治会 66

〈寄稿〉小松成美 68

〈寄稿〉中西美帆 70

保土ヶ谷区略年表 72

ご協力者・作成関係者一覧 74

ゆっくり焦らず、 自然を残しながら、 質の高い変化を 遂げてほしい。

「男はつらいよ」シリーズで
国民的人気の女優、
倍賞千恵子さん。
その夫君で
幅広い分野で活躍する
作曲家の小六禮次郎さん。
お二人は在住27年目という、
保土ヶ谷区民です。
保土ヶ谷の良さ、
区内の変化やこれからについて、
そしてちょっぴり
お仕事のことを伺いました。

保土ヶ谷で暮らすって…



畑尻 明

(保土ヶ谷区制90周年記念事業実行委員会会長)

菅井 忠彦

(保土ヶ谷区長)

倍賞 千恵子

(女優・歌手)

小六 禮次郎

(作曲家)

引越した頃は まるで「森の中」でした

曹井 お二人は保土ヶ谷在住がずいぶん長いとお聞きしました。そもそもどううしてこちらに引越してこられたのですか。

倍賞 私はもともと東京の巣鴨の生まれで、ずっと東京に住んでいたのですが、今住んでいるマンションの設計を松竹歌劇団（SKD）時代の友だちの旦那さまがおやりになるということで、見に行つたんです。その時、主人の「よし、ここに決めよう」という一言で保土ヶ谷区民になることが決まりました。

小六 私は岡山出身なのですが、横浜には昔から縁があるんですよ。大学に入ったとき、屏風ヶ浦（磯子区）に姉と住んでいましたし、大倉山（港北区）の方にも住んだことがあります。保土ヶ谷区はこれが初めてでした。

倍賞 この人、引越し魔なんです。20年間で20回以上引越してきて、二人で東京のどこかへ行くと「あ、この近所に住んでた」「懐かしいな」

と（笑）。

小六 神奈川県内だけでも10回くらい引越してますね。でも、保土ヶ谷に越してきてからはずっと今のところで。

曹井 引越してこられた当時、保土ヶ谷はどんな印象でしたか。

倍賞 当時はほんと、周りにちっちゃな山がたくさんあるようなところでした。すごく静かで、「森の中みたいでいいわね」と二人で話していました。

お散歩コースは 今でも畑の中

曹井 お二人はやはりお仕事で東京へいらつしやることが多いのですか。

小六 そうですね。第三京浜も近いし、新横浜へも便利だし。羽田へも楽に行けるようになりましたね。

曹井 ところで、地元で過ごされるときは、どんなことをなさってますか。

倍賞 近所を散歩しますね。まだまだ畑が残っていて、蕎麦畑もあつて、そこで打った蕎麦をいただいたこともあります。

畑尻 確かに、山の上の方には今も畑がありますからね。

小六 以前は妻と一緒によくゴルフをやつたのですが、体を痛めてしまい、今はもっぱら歩いています。近所でも畑を耕している方もいらつしやつて、とてもいい田園風景です。まあ、年を取つたらアップダウンのきつさがこたえるかもしれません。

倍賞 エスカレーターを付けてほしいつて思うときもありますね（笑）。

畑尻 倍賞さんはゴルフがお好きなん

ですね。「ざくら」さんがゴルフ好き

というのも意外な気がしますが（笑）。

倍賞 寅さんと一緒に御前さま（笠智衆さん）もゴルフをやるものですから。あの方は足腰のためにつてスニーカー履いてスタジオ入りしたりしていました。前田吟さんもすごくお上手ですよ。

「寅さん」は学校のような 映画でした（倍賞） 「費用対効果」で父を 説得して音楽家に（小六）

曹井 お仕事の話が出ましたので、お二人の今に至るキャリアをお聞かせください。

倍賞 私はSKDで歌って踊っているとき、松竹から1本だけ映画に出てくれと言われて、気が付いたら映画の世界に入っていたという感じでした。最初の年が9本、次の年には13本撮りました。

小六 あの頃は週替わりで映画館の上映作品が替わっていきましたしね。倍賞は今まで170本くらい撮ってますから。



倍賞 50数年で170本はやっぱり多い方でしょうね。そのうち3分の1近くは「寅さん」。人間関係や社会などを学んだ、学校みたいな映画でした。一時期とでもつらくて、やめたいと思つてたときがありました。プライベートでも「おい、さくらー!」なんて呼ばれて。それを渥美清さんに言つたら「役者が役名で呼ばれるつてのは褒め言葉だよ」と。それでハツと思ひ、仕切り直ししてまた走り出したんです。

畑尻 私も倍賞さんの大ファンです。…。柴又へはもう3回くらい行きましたよ。あ、ここで撮影したんだというお店にも入りましたし。

倍賞 草団子の美味しいお店ですね。

曹井 ところで、小六さんは作曲家として本当にさまざまな分野でご活躍ですね。

小六 子どもの頃、兄が買ってきたドヴォルザークの『新世界』というレコードを気に入って、毎日聴いていたんです。中学でブラスバンド部に入り、高校1年のときにはカラヤンとベルリン・フィルハーモニー管弦楽団が岡山

に来て、お小遣い貯めて聴きに行ったんです。音楽家になる、と決めたのはその頃です。父親を説得するのに、『東京藝大に行きたいのだが、国立だから授業料は私立に比べてこれだけ安い』『藝大に行った高校の先輩は歌詞曲でヒット曲を連発している。これだけ稼げる』という理由を並べたんです。会社をやっていた父親に、今で言う「費用対効果」を説得材料にしたわけですね(笑)。



近所の小さなスーパーを応援しています

曹井 小六さんがお仕事で一緒にしたことのある神奈川フィルハーモニー管弦楽団の練習場も、保土ヶ谷区にあるのですが。

小六 保土ヶ谷アートホールですね。妻のリハーサルでも時々使ってますよ。あのあたりは緑が濃くていいですね。

倍賞 新緑の季節もいいですし、秋もイチョウが色づいていい雰囲気です。

畑尻 散歩気分で地元でお買い物などされるのですか。

倍賞 近所に小さなスーパーがあるんです。「よろず屋さん」的なお店で、野菜をよく買いに行っているのですが、裏の方に大きなスーパーができちゃつて、頑張れ頑張れって、一生懸命応援しています。

小六 そのご夫婦とは、一緒に旅行にも行ったんですよ。なんせ、引越してきた頃からの付き合いなので。

倍賞 まだ頑張っているお店もたくさんありますよ。



地元でのコンサートは親戚の前で歌う感じ

曹井 来年(2018年)3月に区制90周年記念としてコンサートを開催しますが、意気込みを聞かせてください。

倍賞 地元の保土ヶ谷で歌うのは初めてなんです。今まで頑張ってきた自分が、この年齢で歌える歌があるというのは幸せだなと思います。

ずっと歌い続けてきた歌というか…。地元でのコンサートはすごく楽しみな反面、知り合いも多く来そうだからドキドキしています。

小六 横浜の県民ホールでは何度もやっているのですが、地元だとコンサートへの接し方も違うんじゃないかと思つてまして。何だか、親戚の前で歌う感じですね(笑)。

倍賞 私のコンサートによく来てくださる男性ファンがいらつしやるのですが、その方々も保土ヶ谷在住で。地方のコンサートには、保土ヶ谷の果物を持ってきて差し入れてくださるんですよ。



変化はゆつくりでいい 質の高い変化であれば

曹井 これから100周年に向けて、どのようなことを保土ヶ谷に期待されますか。

倍賞 27年間ですごく変わりましたが、これからも変わっていくと思いませんが、早く変わればいいというものではないですよ。そんなに急がなくてもいいから、保土ヶ谷のことをじっくり考えながら進化していくのがいいかなと思います。

小六 住民が守ってきた山を業者が買い取つて開発した地区があるんですよ。木を全部切つてしまつて。今から考えると3分の1でも縁が残つていればいい街になつたのと思えます。開発するのでも、質の高い開発をよく考えてやつていけば、区のクオリティも上がるのではないのでしょうか。

倍賞 来たばかりのときは、よくタヌキを見たんです。うちのキッチンからひなたぼっこしているのを見ました。今は見なくなつちやいましたね。でもまだ鳥は多いですよ。カワセミも

いますし。

畑尻 年月を経ることにまちは変化していきますが、私にとつて保土ヶ谷はいつまでも住み続けたいまちです。

小六 文化的にも質の高い変化をするためには、ぜひ行政にも頑張つてもらいたいですね。

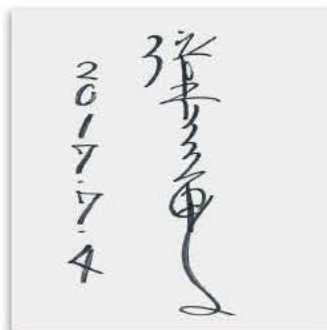
曹井 大変貴重なご意見、どうもありがとうございます。3月のコンサートを楽しみにしています。また、今後の活躍も期待しております。



Profile

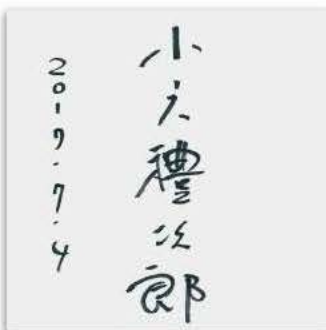
倍賞 千恵子 (女優・歌手)

1941年6月29日東京都生まれ。松竹音楽舞踊学校を首席で卒業後、松竹歌劇団入団。1961年「班女」で女優デビュー。1962年「下町の太陽」で歌手デビュー。1969年から「男はつらいよ」シリーズに「さくら」役で出演。2005年紫綬褒章、2013年旭日小綬賞を受賞。小六禮次郎氏とコンサート活動も行っている。



小六 禮次郎 (作曲家)

1949年12月13日岡山県生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒。作曲、編曲分野の第一線で活動。映画、テレビ、ラジオからCM、ミュージカル、ゲーム音楽など幅広い分野で多くの作品に携わる。倍賞千恵子氏とのコンサートではピアノの演奏もする。



区制が施行されて90年。
かつては、東海道の宿場として
栄えていた保土ヶ谷の
90年を振り返る。



旧保土ヶ谷区役所

昭和2年、横浜市に区制が施行。最初の区役所は、岩間町に設置された。

「まち」



復興後の橋樹郡保土ヶ谷町昭和戦前期

奥が戸塚方面。通行量も少なく、通りの中央を歩いている人も見える。左手は本陣跡。



神明社の参道、近くに工場の煙突が見える

暮らし

保土ヶ谷区は戦後、工業地区として栄えていた。人々の暮らしには、いつも工場が身近に感じられた。

紡績前通り商店街

紡績とは、ここにあった富士瓦斯紡績に由来。



紡績前通り商店街

紡績前通り商店街 昭和戦前期「横浜市商店街に関する調査」



西谷浄水場から横浜港方面を望む(昭和27年11月頃、撮影：内田久雄)

西谷浄水場からの眺め。畑ばかりであったが、次第に住宅地になってゆく。



西谷浄水場から横浜港方面(みなとみらい地区)を望む(平成9年2月、撮影：内田久雄)



豊海道路レンガ坂

坂のまち、保土ヶ谷。起伏に富んだ地形のため、区内には特徴的な坂が多い。



豊海道路ピール坂

帷子川

区の中心を流れる帷子川。かつては地場産業となっていた捺染業が盛んであった。布に付着した染料を洗い流すための、帷子川での水洗い風景は風物詩だったが、水質汚濁や製作技術の変化により、昭和60年頃には見られなくなった。



帷子川に架かる木橋の学校橋



捺染した長い布を川の水にさらす



捺染した布を川で洗って引き上げる



捺染した長い布を陽にさらす



保土ヶ谷の工業地帯 昭和戦前期



現在の横浜ビジネスパーク

工業地区は保土ヶ谷の中心を占め、京浜工業地帯に続く地として、その規模を誇っていた。その中のひとつ、日本硝子横浜工場は、県外に移転。その跡地は現在の横浜ビジネスパークに変わることになる。

工業地区



建設中の横浜ビジネスパーク



たちばなの丘公園になる前、日本カーリットの頃



市内で唯一、渓谷としての景観を保っている公園。 関ヶ下渓谷公園

公園

区内には、保土ヶ谷公園や児童遊園地といった大規模な公園のほか、特色ある公園も多い。古くからある公園、宅地化に伴って新設された公園、あなたも自宅近くのお気に入りの公園を見つげられるかも。



植え込みのようにみえるのは、お茶の木。

新井町公園



児童遊園地

菜の花と桜、空の青色のコントラストが美しい。



墨川中央公園



今井の丘公園



トンネルは、昔あった日本カーリットの名残。 たちばなの丘公園



仏向矢野公園



保土ヶ谷公園



川辺公園



造成中の児童遊園地



東海道の光景



松並木プロムナード

平成19年、区民と横浜市の協働により、旧東海道を象徴する松並木が蘇った。



金沢横丁

金沢や鎌倉に向かう道との分岐点に石碑が4基並んでいる。



保土ヶ谷宿 草葺屋根の家が続く。

「旧東海道」

古くから旅人にとって重要な「道」であった東海道。沿道には、時代の変遷を見届けてきた歴史資産が数多く残っている。ここ保土ヶ谷でも旅籠や道案内の石碑などに、東海道の面影を見ることが出来る。



箱根駅伝 (狩場町) 現在の狩場インターあたり。奥が戸塚方面なので、復路のようだ。



旅籠本金子屋跡 江戸時代、旅籠として栄えた本金子屋。



旧東海道保土ヶ谷 天王町駅前から保土ヶ谷駅方面。商店街のアーケードに昭和の時代を感じる。



御所台の井戸

尼將軍化粧の井戸(政子の井戸)と呼ばれる。平成18年になってから整備され、きれいになった。



軽部本陣跡 東海道を往来する幕府の役人や大名は宿場に設置された本陣に宿泊した。

「鉄道」



保土ヶ谷駅



保土ヶ谷駅

保土ヶ谷区の表玄関、保土ヶ谷駅は、明治20年7月東海道線の開通によって、「程ヶ谷駅」として、戸塚、藤沢など5つの駅と一緒に開設された。程ヶ谷駅は昭和60年11月、「保土ヶ谷駅」と字句が改められ、平成29年7月で開設130周年を迎えた。

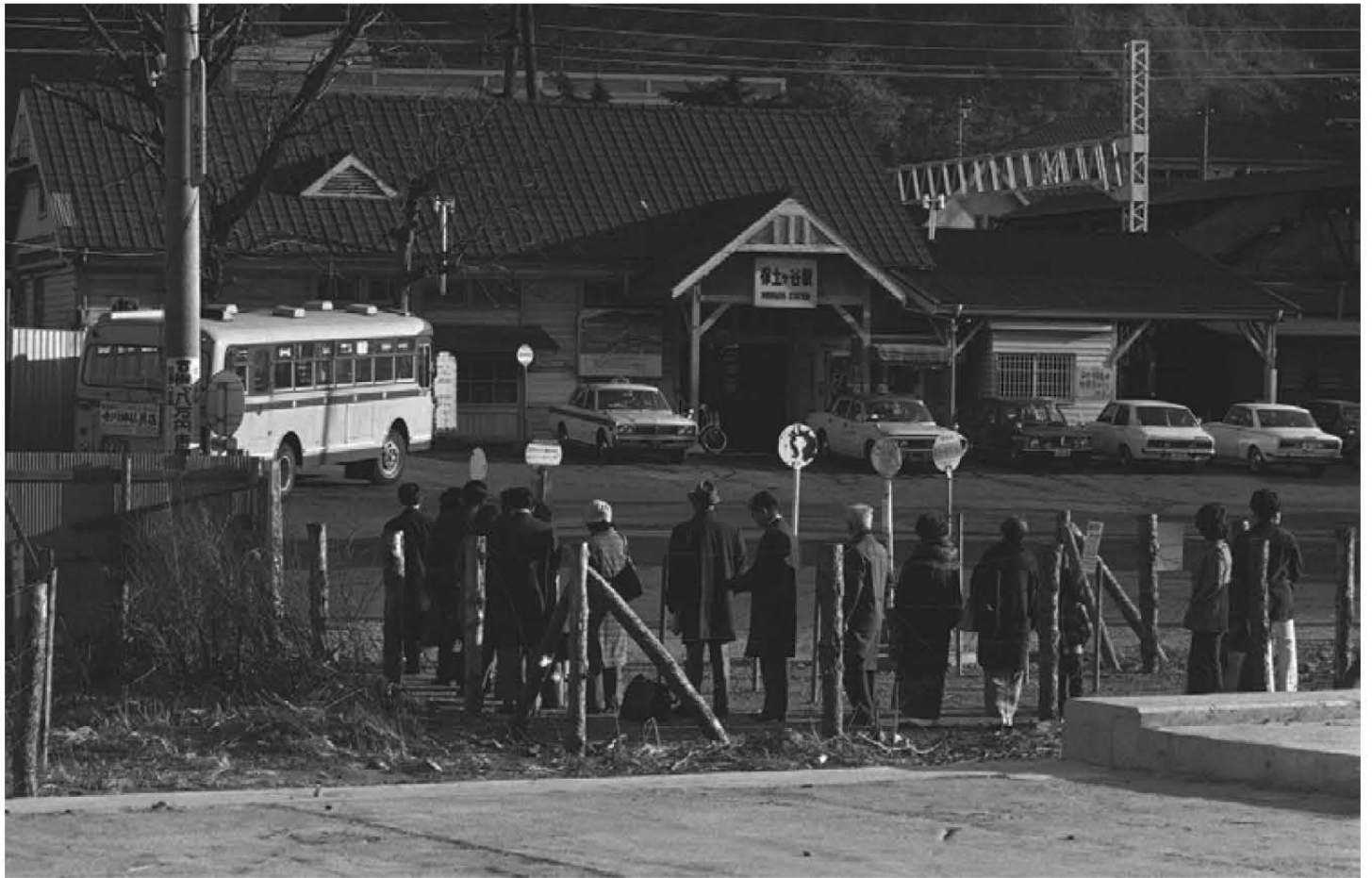
保土ヶ谷駅



市町延伸工事 保土ヶ谷駅前



横須賀線



保土ヶ谷駅 バスを待つ人がたくさん。昭和56年に駅が橋上駅舎になってから、駅前広場も整備され、雰囲気がからりと変わった。



市電路線延長(戦後初) 保土ヶ谷駅前

東口の駅前には市電が走っていた。

相模鉄道 創立100周年!

相模鉄道

砂利輸送を目的としてスタートした相模鉄道(神中鉄道)。現在は、区民の足として欠かせない相鉄線だが、当時の沿線は、農村地帯が多く、相模川で採取される砂利の運搬が輸送の中心となっていた。

星川駅



北瀬ヶ谷駅(昭和初期)



上星川駅(昭和39年)



天王町駅(昭和43年)

かつて活躍した車両



旧85000系(昭和30~60年)



3000系(昭和22~40年)



神中3号 蒸気機関車(大正15年~昭和26年)



豊川駅(現在)

平成29年3月、下り線が高架化された。



豊川駅(昭和43年)



西谷駅(昭和39年)



和田町駅(昭和45年)



3010系(昭和38年~平成10年)



8000系(昭和30年~平成10年)



8000系(昭和30年~平成10年)

平成29年は、横浜に近代水道が創設されて130年！

「水道」

明治20年(1887)、英国人技師パーマー氏の指導により、わが国初の近代水道として給水を開始した。大正4年(1915)に西谷浄水場が完成し、当時のレンガ造りの建築物は、平成9年に「国登録文化財」として登録されている。



大正4年西谷浄水場 完成した事務所



大正3年頃 仏向和田町間36インチ管敷設工事



昭和7年 西谷浄水場



昭和7年の西谷浄水場(空撮)



現東門から見た西谷浄水場からの配水管敷設工事



現在の西谷浄水場

右手にはみなとみらいが見える。



現在の西谷浄水場

レンガづくりの建築物。平成9年6月「国登録文化財」として登録される。



現在の西谷浄水場(空撮) 平成29年(2017)撮影



地域からは、50階段とも呼ばれている。水道道

いい人ばかりの
保土ヶ谷区は、
何年も変わらず
このまままで
いてほしい。

食レポをはじめバラエティー番組に
なくてはならない存在の石塚英彦さん。
フリーのプロレスラーとして
次世代のマット界を
引っばっていくKAI選手。
市立桜丘高校出身のお二人を母校に迎え、
高校時代の忘れられない話から
保土ヶ谷への思いまで、
校長の中島久男先生が
いろいろと聞き出しました。



KAI
(プロレスラー)

中島 久男
(桜丘高校校長)

石塚 英彦
(タレント)

高校時代は

とにかく坂道の記憶。

夏場は着替えの
ワイシャツ持参(石塚)

中島 保土ヶ谷区は2017年で区制90周年を迎えますが、この桜丘高校も同じく創立90周年なんですよ。お二人の高校時代の思い出はなんですか。

石塚 横浜でいちばん坂が多い区は保土ヶ谷ってよくいわれていますが、この高校も坂の上にあるので、どこから登校するにも坂を上らなきゃならない。夏場は来るだけでワイシャツがびしょびしょで、いつも着替えを持ってきていました。

KAI そうです、まず着替えてから授業、という感じでしたね。高校時代は毎日上って下って、が当たり前でしたから。

石塚 保土ヶ谷出身の人はみんなふくらはぎが太いって聞いて、ああ確かにと(笑)。高校時代がいちばん脚力あつた気がしますね。今は楽して車を使っていますから。

中島 『この学校は何でこんな所にあるんだ』という話をよく聞きますね。

KAI 高低差があるから、トレーニングに適していますね。自宅から保土谷公園まで行って走っていた思い出があります。普段から階段や坂道を上ったり下ったりしているだけで、自然に心臓が鍛えられますしね。

プロレスラーになるために 入った柔道部(KAI)

中島 お一人とも柔道部のご出身ですね。石塚 僕は中学時代、水泳部だったんです。で、近所の床屋さんにも柔道をやっていた兄と間違えられて「柔道部はどう？」と訊かれるんで、否定するのも面倒くさいから高校で柔道部に入っちゃったんです(笑)。

KAI 僕はプロレスがすごく好きで、自分でもやりたいと思うようになつたんです。そしたら体育の先生(柔道部の顧問)に、「じゃあ柔道部入っちゃえよ」と言われて、「そうか」と即決しました。高校2年のときでした。入部初日、「プロレスラーになるために柔道部へ入りましたので、よろしくお願いたします」と挨拶したのを鮮明に覚えていますね。

石塚 すごいなあ。そのときに言った言葉を実行してるんですからね。

中島 その頃、柔道部の雰囲気はどうでしたか。

KAI 明るく楽しく、でも激しくちゃんとやるという感じでしたね。「ヤラちゃん」の影響で女子部員もいましたし。

石塚 僕の頃は時代もあって、かなり厳しかったです。精神的にも鍛えられました。だから芸能界でやっていけるといふ(笑)。OB会には今でも必ず行っています。

「ぬるま湯温泉」には それなりの効能が あるんですよ(中島)

中島 通っていらした頃の桜丘高校の雰囲気はどんな感じだったんですか。

石塚 高校の受験勉強を頑張つて入つて、入ると油断しちゃうという。近くに保土谷公園やプールもあるから、何かのんびりしちゃうんですね。自分自身振り返つてもそうでした。

KAI 僕もプロレスにはまつてたんで、そつちに……。みんな穏やかな生徒が多かったです。

中島 今でも学校説明会で「穏やかな校風」と言うんですが、その当時からそうだったんですね。口の悪い人には「ぬるま湯温泉」とからかわれますが、「温泉には効能がある」と反論してるんです。

石塚・KAI おお、それはいい言葉です。僕らにもその効能があつたわけですね。



高校時代に撮った 8ミリ映画にはみんな 協力してくれた(石塚)

中島 石塚さんは高校時代に自主制作映画を作られたそうですね。

石塚 「ロッキー」に影響されて、白帯の柔道選手がインターハイの決勝まで行くストーリーです。僕が監督兼主演で。撮影にはほんと、皆さん協力してくれたんですよ。

KAI 柔道部以外にもですか。

石塚 カメラ回してくれたのは先生。文化祭で上映するために作ったんですが、予算のない中で、自腹切ったんじゃないかな。あとは、先生方や同級生も出演してくれたし、本物の大会がここ(桜丘高校)で行われたときにも撮影させてもらって。実際には勝ってないけどガッツポーズしてる画を撮ったり。他の市立高校の連中もみんな協力してくれました。ちょっとやんちゃな奴も不良役を一生懸命やってくれました。KAI 真面目な不良なんですね(笑)。中島 それがきっかけで俳優を目指されたんですね。

石塚 そうです。でも自信もなかったんで、まずは大学に入ってその演劇サークルで芝居を磨こうと。でも、入った大学には演劇部がなかったんです(笑)。それで休学して劇団ひまわりに入りました。



保土ヶ谷の 意外な名物は ネギとジャガイモ (石塚)

中島 映像つながりですが、ここで保土ヶ谷区が制作した広報用プロモーションビデオを観てください。

—「ほどがやカノン」予告編と第1話を上映

石塚 ミュージックビデオなんですか？
中島 そういう作りですが、出演者はすべて保土ヶ谷区役所の職員です。

KAI 楽器演奏している人たちもですか？

中島 ほぼ未経験の職員も一生懸命やってくれたとのことです。全7話制作予定だと聞いています(※)。

石塚 有名スポットもいくつか出てきますね。保土ヶ谷公園とか水道記念館とか。あ、松原商店街はよくロケで行きますよ。

中島 保土ヶ谷の名所がいくつも出てきましたが、名物といえば何だと思えますか。

石塚 僕が知ってるのはジャガイモの「キタアカリ」。以前番組で保土ヶ谷が原産と聞いて驚いたことがあります。北海道のイメージが強いですから。

中島 キタアカリで作った焼酎もあるそうですね。10月の区民まつりで飲めるとか。あと、西谷ネギも有名ですね。

KAI ああ、西谷のあたりは畑も多いですからね。

※「ほどがやカノン」で検索してみてください。

保土ヶ谷を 「スポーツのまち」とも 呼びたい(KAI)

石塚 ところでKAI君はまた保土ヶ谷に凱旋するんだよね。

KAI はい、そうですね。プロレスのチャリティー興行を10月に保土ヶ谷スポーツセンターで行います。保土ヶ谷出身のレスラーも何人か出るんですよ。この会場は、まるでプロレスのために作られたんじゃないかってくらい、素晴らしいんです。

石塚 あんなに立派なスポーツセンターだとは思わなかった。



KAI 今年は保土ヶ谷区と桜丘高校が90周年、保土ヶ谷スポーツセンターが30周年、そして僕がプロレスデビューして10年です。あと、スポーツ関係で言うと、保土ヶ谷球場のある保土ヶ谷公園は素晴らしいと思います。

中島 高校野球の夏の大会ではメイン球場の一つですからね。テレビ中継もやりますし。

KAI ラグビー場もサッカー場も、テニスコートもありますもんね。保土ヶ谷は「スポーツのまち」でもあると思います。こつちの面でもっと知名度を高めて、盛り上げていきたいですね。



100年経っても 変わってほしくない 保土ヶ谷

中島 では最後に保土ヶ谷区制100周年に向かって、一言聞かせていただけますか。

石塚 保土ヶ谷って、あんまり変わらなところの魅力だと思います。隣にはみなとみらいがありますが、どんな顔が変わるじゃないですか。前向きで素晴らしいとは思いますが、保土ヶ谷はそういう変化を高台からニヤニヤしながら見ているのがいんじやないかな(笑)。

KAI 保土ヶ谷は横浜の中心部と戸塚区に挟まれていて、今ひとつ抜け出せてない気がするんです。さっき言ったみたいにスポーツのまちであるとか、もつとアピールしていけばいいなと思います。
石塚 保土ヶ谷は東海道五十三次の宿場町ですよ。子どもの頃、お茶漬け海苔に入ってた浮世絵の五十三次カードが保土ヶ谷宿だと、やけに誇らしかつたです。今でも保土ヶ谷駅周辺には宿場町の雰囲気が残ってる気がし



ますよね。あと、北条政子ゆかりの「政子の井戸」というのも歴史が感じられますね。だから何年経ってもそういうものは残ってほしい。100周年だろうが200周年だろうが。
KAI そういう古き良きものを大事にしてほしいですね。

石塚 保土ヶ谷の良さは人の良さだとも思います。出会ってきたのがいい人ばかりですから。悪い人はいません(笑)。
中島 いい人がたくさんいる区には、いい未来が待ってそうですね。今日はいいお話がたくさん聞きました。どうもありがとうございました。

Profile

石塚 美彦 (タレント)

1962年2月6日生まれ。
保土ヶ谷区出身、横浜市立桜丘高校卒業。高校時代は柔道部所属、お笑いタレント、グルメリポーター、俳優としてさまざまなメディアで活躍中。「まいろう」で一世を風靡。



KAI (プロレスラー)

1983年5月20日生まれ。
戸塚区出身、横浜市立桜丘高校卒業。高校時代は柔道部所属。メキシコ修行後、2008年に日本デビュー。2016年、WRESTLE-1チャンピオンに。現在は同団体を退団し、フリーランス。



保土ヶ谷地区 連合自治会



子ども防災キャンプ

保土ヶ谷地区連合自治会は、瀬戸ヶ

谷町の一部と狩場町及び岩井町西口の、十三自治会によって、構成されています。瀬戸ヶ谷町の一部と狩場町は、保土ヶ谷駅南側の丘の上であり、首都高速三号狩場線(高速三号線)が東西に走り、また、狩場町は、国道一号線によって、分断されています。

このような中で、「地域とのつながり」「人とのつながり」を考えると、行事をもつことは、大切になってきます。

チャリティーコンサート

平成二十三年三月、東日本大震災がありました。九月に連合自治会では、衣類を集め、ダンボール箱五十箱の衣類を気仙沼町に届け、その報告



チャリティーコンサート

会とともにチャリティーコンサートを行いました。被災地出身の人を含む洗足学園音楽大学OBによる管弦楽四重奏を鑑賞しました。二十四年は、瀬戸ヶ谷小学校PTAコーラス、二十五年は、区内在住のレオ・ラニによるハワイアンを楽しみました。義援金は新聞社を通じて寄付しました。

こども防災キャンプ

毎年七月中旬の土・日、児童遊園地で、こども防災キャンプを行っています

ます。権太坂消防出張所長の指導と、ゲーム、クイズなどで防災意識の向上を図っています。お楽しみは、肝試し。夜は、広場一面に張られたコーランのテントで野外宿泊体験をしています。

連合大運動会

十月中旬の日曜日、連合大運動会があります。二十八年度には四十回を迎えました。健民祭を引き継いだようで、優勝杯は、「市長杯」です。地区を四チームに分け、和やかに熱戦が繰り広げられています。

落ち葉感謝祭

毎年十一月三日、児童遊園地を中心に展開される「農と緑のふれあい祭り」の「落ち葉感謝祭」に参加しています。模擬店をはじめ、民児協、地区社協、青指が中心になって、ドンクリ細工、蔓を使ったリース作り、科学教室なども行っています。

年末防犯防火パトロール

十二月の末には、警察署、消防署の

協力を得て、連合自治会エリア内に
広報活動を行っています。

それぞれの自治会でも、 行事を工夫しています

狩場祭(狩場東部)・納涼祭(コー
プ保土ヶ谷)・もみじ祭り(東伸)は、
近くの公園を会場に行われます。和
太鼓の演奏、子どもたちの太鼓の発
表、盆踊り等にぎやかに行われます。
模擬店も盛んで、老若男女の交流と
憩いの場となっています。防災グッズ
の紹介をしているところもあります。

新春のつどい(狩場東部)では、新
年の顔合わせと同時に、音楽・芸能人
を招き文化交流の場としています。

敬老の日お祝いの会(グリーンヒル
ズ横浜)では、高齢の方を招いて、お
祝いの会を開いています。アトラク
ションとして、マジックショー、フルー
トやギター演奏によるコンサートが
行われました。他の多くの自治会で
は、個別訪問して、敬老祝い金・祝い
品を配っています。

防災・防犯のための行事も各地区

で行っています。毎週一回の昼間・夜
間の時間帯別パトロール(瀬戸ヶ谷
南)をはじめ、初期消火器具の取扱
い、救命避難に関する基本的な訓練
を主眼とした避難訓練は、各自治会
で実施されています。



防災感謝祭



運動会

保土ヶ谷中・南部 地区連合自治会

保土ヶ谷中地区 連合自治会

保土ヶ谷区制九〇周年おめでとう
ございます、更に百周年に向け保土ヶ
谷区がますます発展し、安全・安心で
住みよい「まち」になるよう、官民一体
となり活動していきたいと思えます。

保土ヶ谷南部地区連合自治会及び
保土ヶ谷中地区連合自治会は、東海
道保土ヶ谷宿本陣のある中地区連合
と、今井川を挟み保土ヶ谷宿の一部を
構成していた南部地区連合自治会と
歴史的なつながりのある連携して活
動しやすい条件のそろった地域です。
今井川河川清掃や「水辺愛護会」活
動、「納涼盆踊り大会」、「餅つき」、地

域防災意識の醸成(本陣フレンドシッ
プ・デー)・東日本大地震による被災
地支援などを行っています。

水辺愛護会 今井川河川清掃

保土ヶ谷町及び岩井町の二部は、平
成十六年十月の台風二二号の集中豪
雨にみまわれ、今井川が氾濫、国道一
号線が岩崎ガード、保土ヶ谷駅周辺
まで道路冠水、保土ヶ谷橋も水没し、
保土ヶ谷町だけでも約四十棟の家が
床上浸水する被害が発生しました。保
土ヶ谷町では翌十七年から「水の被害
を防ぐには川を知ることが大事、その
ためにはまず川をきれいにすることが
基本」と考え清掃活動を始めました。



河川清掃

同じく被害を受けた岩井町自治会が
賛同し参加しました。

平成十九年二月「ヨコハマ市民まち
普請事業」によって旧東海道保土ヶ谷
宿に松並木・二里塚・見附などの再現
を行いました。

平成十九年四月「保土ヶ谷宿松並
木プロムナード水辺愛護会」(会長山
崎徹)が結成されました。目的は保土
ヶ谷町1-2丁目、瀬戸ヶ谷町に面す
る今井川沿いで松並木・二里塚を中心
に水辺の環境を良好に保ち、快適な水

辺と触れ合いを楽しむことができる
ように、美化活動などを実施し、水辺
愛護精神の高揚を図るものです。

結成後は、愛護会が積極的に参加
し、他の自治会に働きかけ、瀬戸ヶ谷
町自治会、モアグランディア自治会、グラ
ンドメゾン自治会が参加、更に区役所
の方々の参加ご協力を得て、年二回五
月と十月に清掃活動を実施していま
す。河川清掃終了後は保土ヶ谷町自
治会女性防災部が作る炊き出し肌鯉
のおにぎり、みそ汁を美味しくいただ
き、連合町内会を超えて多方面の方々
と語り合うことで連帯感はずます
高まっています。



河川清掃

年間の主な活動は、毎月第四日曜日の松の下草清掃、学童参加による松の菰巻き、菰はずし、今井川の水質検査のほか、正月二日・三日の「箱根駅伝」店



植樹祭の起工式



松籠付け作業(瀬戸ヶ谷中公園)

援イベントなどを行い、関係者との交流を図っています。

納涼盆踊り大会

今まで夏祭りは、各町内で行っていましたが、マンション居住者は地域で神輿を担ぐ、盆踊り会場で踊る、売店でビールを飲むことは考えられないことで、「般の人として会場に行つて眺めているだけでした。そんなとき、保土ヶ谷町の前会長山崎氏から「高齢化・少子化が進み、自治会での夏祭り運営は大変」「良かったら一緒に盆踊りをしませんか……」とお誘いを受け、サンヴェール保土ヶ谷自治会・モアグラランテ自治会・グラントメゾン自治会・瀬戸ヶ谷中郷自治会と話しあい、参加させていただくことになりました。

近隣の地域としての夏祭りを営むには、神社の氏子との関係から、配慮していただき、平成16年から「納涼盆踊り大会」として、会場をサンヴェール前公園に移し5自治会合同で開催することになりました。

最初は神輿を担ぐ、盆踊りができることの喜びで一杯でしたが反省会(餅洗

い)で「ビールぐらい飲みたいね」の声があり、翌年には「つまみもほしいね……」「少しお腹が膨れるものも……」になり、子どもだけではなく、運営する大人も楽しむため、一挙に今の型になりました。それ以来5自治会共同で開催させて頂いています。

運営面では、5自治会の役員が事前検討会を始め、衛生面をより重視し、事前に衛生当局へ届出を出し「生ものは出さない」「会場で食べて頂く」(持ち帰らない)「代金は金券で」を買って、最近では2日間で参加者が750人、800人になっています。納涼盆踊りには5自



納涼盆踊り大会



納涼盆踊り大会

治会以外の自治会から来た子どもにも分け隔てなく、お菓子を配布しています。このことは自治会の枠を超えて地域で楽しもうという想いが込められています。今までもこれからもこの想いを引き継いでいきたいとおもいます。

餅つき大会

毎年12月第一日曜日「納涼盆踊り大会」と同様、5自治会合同の「餅つき大会」を開催しています。

平成28年は天気にも恵まれ300人、350人の参加で、他自治会からの参加者も分け隔てなく、お迎えするこ



本陣・フレンドシップデー 消防音楽隊による記念演奏

餅つき大会は、前日に70キロのもち米を研ぎますが、この量は地区最大です。当日は9時に男性が火熾し、10時から餅つきを開始します。餅つきは男性だけではなく、女性のとび入りもあり、和気あいあいとして盛り上がりがあります。11時頃から集まった子どもにも、子ども用の杵で餅つきを体験。つき終わった餅はお供え餅、女性が「きな粉餅」「大根おろし絡め餅」にして、集まった方々に配ります。また他の場所では、豚汁、お汁粉を作り配ります。役割はほぼ5自治会で決まっています、もち米を蒸す係、手返し、餅をつく係、子どもの持ちつき手助け、大根おろし係など手馴れたもので、新しく参加した方も自然にできるようになっていきます。

この場でも自治会の枠を超えた地域の絆が強まっています。

「本陣フレンドシップデー」への参加

平成18年、保土ヶ谷消防署は地域の皆さんに出張所の存在を知ってもらうことを目的として11月3日「お出かけお迎え防災学習」を実施し、南部地区連合自治会内の瀬戸ヶ谷町自治会家庭防災員10名ほどが本陣消防出張所前でバザーを行いました。翌平成19年、本消防署が全国に先駆けて防犯機能も併せ持つ青色ボックスを設置し、式典の様子はNHKニュースなどでも紹介されました。式典当日の11月3日、本陣出張所前では「本陣フレンドシップデー」の前身というべき自主防災事業を開催。南部地区連合自治会では家庭防災員、民生委員他各委嘱委員が参加・協力し、以後、毎年参加しています。平成20年、当時の本陣出張所長が自主防災事業を「本陣フレンドシップデー」と命名。さらにこの年、横浜市消



本陣・フレンドシップデー 会場風景

防音楽隊が本陣フレンドシップデーでの演奏のために「わがまち、保土ヶ谷」を吹奏楽版にアレンジ、初披露の場となりました。以後、その演奏は毎年来場者の楽しみとなっています。平成28年に10周年を迎えた地域の自主防災事業「本陣フレンドシップデー」を今後も参加応援したいと思います。

東日本大震災による被災地支援

南部地区連合家庭防災部の活動の一環として、連合役員、地区社協、民生・児童委員と連携し「東日本大震災を忘れない」をモットーに、平成26年より福島県いわき市薄磯地区を訪問しています。平成28年は、地域の自主防災組織

「本陣フレンドシップデー」の10周年記念事業被災地支援に参加、公営住宅薄磯団地自治会を訪れました。公営住宅の建設、宅地造成など、年を重ねるごとに復興が進んでいる様子は見られますが、被災後6年が過ぎても宅地には家が一軒も建っていませんでした。復興は途上です。千年に一度の未曾有の大震災といわれる東日本大震災の被災地支援を今後も続けていきたいと思っています。



東北支援 見学台で集合写真



階段造成中だが、家屋の建築はない



区の木 ハナモモ



横浜市児童遊園地

保土ヶ谷東部地区 連合自治会



平成27年は天気にも恵まれ、区外からも大勢の方が見えられました。

保土ヶ谷東部地区は、国道1号線と横浜新道に囲まれ、東西に長く延びた地域です。保土ヶ谷駅西口商店街と落

ち着いた佇まいの住宅地、比較的新しく開発された地域が混在した坂の多い地区で、20の自治会、町内会で組織され、約3万2千人が暮らしています。

地域内に県立保土ヶ谷公園があり、夏になると硬式野球場では高校野球の県大会が開催され、多くの高校球児や応援の人達でにぎわいます。秋には区民まつりが開催され、保土ヶ谷区民を始めとして大勢の人が訪れています。

東部地区

宿場祭りの会場となる保土ヶ谷駅西口商店街を中心に大正時代から昭和初期に建てられた洋館が未だに残り、その中には町内会館として現在も多数の方に利用されている帷子会館が

あります。雁台の丘の上には昭和14年に建てられた聖堂のある「保土ヶ谷カトリック教会」があります。



昭和初期に建てられた帷子会館で、町内会館として現在も利用されています



地域の祭りとして年々充実し、大勢の方が楽しみにしています。

中部地区

バス停桜ヶ丘から花見台までの通りに「桜台小学校」「岩崎中学校」「桜丘高校」があり、通称「学園通り」と称し、その象徴として「旧県立栄養短大」

がありました。その跡地に建設されたミソラシア横浜桜ヶ丘が完成し、自治会が結成され、平成27年に東部地区連合自治会に加盟しました。

桜台小学校では、東部地区体育祭が第47回を迎えました。第45回の開催後、定例会などで検討を重ね、内容を大幅に変更いたしました。今後は、この体育祭を「ふれあいスポーツフェスティバル」のような地域住民の親睦・健康づくりの場として充実させていきたいと考えています。



昭和20年に栄養士養成所として開設された栄養短大ですが、平成16年3月に閉校となりました。

東部地区体育祭では、お昼休みを利用して踊りの先生とお弟子さんに「保土ヶ谷区の歌音頭」を指導してもらい大勢の人達が踊りました



バス停は閉校後も栄養大学前でしたが、桜ヶ丘二丁目になりました



西部地区

比較的新しい住宅地で、横浜新道を挟んで戸建て住宅と集合住宅が混在し、あまり変化の少ない地域でしたが、平成28年に入り子育て世代のお父さん達による橋中学校を軸とした活動が再開されました。

「橋中学校おやじの会」主催による「橋中学校を拓くキャンドルイルミネーションと地域との絆」の開催です。自主的な活動ですが、今後に期待していきたいと思えます。

また、夏祭り以外にも芋煮会や餅つき大会など独自の活動をしている自治会もあります。

橋中学校の「橋」をモチーフとしてキャンドルを飾りました。初めての試みなので反省点もありましたが、今後が楽しみです。



平成28年11月発行
橋中学校おやじの会

**橋中学校を拓く
キャンドルイルミネーションと地域との絆**

・橋中学校、学園に決りかたを以ては後々ご遺贈のことをご希望し申し立てます。
 ・この、橋中学校おやじの会では橋中学校を拓くキャンドルイルミネーションと地域との絆を、橋中学校地区の学校の皆様、橋中学校を拓くおやじの会と連携して開催し、イベントを実施します。ご参加とご賛助を、ご協力をお願いいたします。

記

このイベントで皆様を招き、キャンドルイルミネーションを飾り、地域の皆様と交流を深め、恒例の日々をもちつくりたいと決まっております。皆様の子供たちもよりお楽しみしてまいります。

日 時：平成28年12月11日（日）
15:30開場 ～ 17:00閉場

場 所：橋 中 学 校

ご 提 供：珈 琲、紅 茶、日 本 茶
（30分前までご準備いたしますが、最終日の朝にはご準備下さい。）

保土ヶ谷西部 連合自治会

自然を愛する 仲間がいる町内

昭和55年ころから私達の町内にマンションが建ち始めました。山は削られて高層マンションが太陽に向かっているようでした。



2009年6月ごろ



2015年5月



2017年1月

近くに国道16号線保土ヶ谷バイパスが通っています。このバイパスの法面は毎年初夏に除草作業が実施されてきました。土埃と除草機械の音は車両が走行する音と変らぬほどでした。平成に入って近くのマンションに住む男性がこの法面にいろいろな樹木や

草花を植え始めました。たった一人で休日の朝から夕方まで植栽の作業をされています。この方は自分の住むマンションにも花を植えていたのです。毎年四季を通じて花の種類を替えて、植栽から管理までたった一人で作業をされていますが、ある時からバイパスの法面に樹木を植えるようになりました。何時しか化石木といわれた落葉針葉樹メタセコイヤ、ヒバ類、花木は紫陽花、樟櫨、柚子、ブルーベリーそしてクリスマスローズなどの草花も法面を覆うようになり、近くに住んでいる方々だけでなく通りすがりの方々も四季の緑樹や花を楽しむようになりました。

平成28年8月 今井川・今井町内の 河川水貯留施設が完成

現在、今井川では、台風や集中豪雨による水害から、市民の命と暮らしを守るため、1時間あたり50mmの降雨に対応する河川改修を進めており、必要となる用地を確保しながら、下流から上流へ向けて順次工事を進められています。

当該施設は今井川の最上流に位置しており、従来から民家が数軒建っていました。今回必要な用地が確保できたため、暫定の貯留施設として先行して工事を実施し、平成28年8月に完成しました。

これにより、洪水時、今井川の水位が上昇した際に、河川水を当該施設に一時的に貯めることにより、下流の水位上昇を遅らせることに寄与するものであります。

貯留量は約600m³です。その量は、25mプール(25m×17.5m×1.2m)525m³とほぼ同じ程度です。



今井郵便局側から見た工事前後の写真



～ここには従来民家が建っていました～



今井橋を上流側から見た工事前後の写真



貯留施設を今井郵便局側に向かって見た工事前後の写真



新桜ヶ丘地区 連合自治会

新桜ヶ丘地区のこの10年は 再構築の年月でした

今井の地が開発され、前連合会
長のもとでまちが整備されてきま

したが、30年が経過した頃から、少
子高齢化・長引く不況・IT機器の
普及などの社会背景の中で、人と
人とのつながりのあり方に変化が
見られるようになりました。まちの



10年前の桜並木

コミュニケーションの一端を担ってい
た、二丁目、二丁目にあった個人商
店の減少による商店会の解散。また
まちのシンボルであった桜並木も老
齢化によって伐採されるようにな
るなど、まち全体に活気が感じられ
なくなってきました。このように生
活環境が変化する中でまちを維持
していく問題解決のため、コミュニ
ティを再構築する時期がきていま
した。特に福祉的課題は多様化し、
より強い顔の見える関係づくりが



つどい活動発表風景



防犯キャンペーン

必要でした。そこで現連合会長が就
任したのをきっかけに、規模の大き
な保土ヶ谷西部連合、同地区社協
から分離して藤塚小学校を中心と
した新桜ヶ丘地区連合自治会及び
地区社協が発足しました。まちの
再構築のスタートです。
最初の取組として、自治会役員を
はじめ委員、ボランティア団体、
市民活動団体、NPOなど地域で活
躍している人たちの活動発表や相互
交流を目的とした「地域交流のつど

い」を開催しました。40団体240名を超える活動者が一堂に会しての発表は、地区を支える人たちの「見える化」に成功しました。歴史的な建造物や自然のない新桜ヶ丘地区の魅力は何といっても住民の力です。従来からある活動はもちろんですが、連合文化祭の開催、青バト車での防犯活動、地域防災拠点民生班設置による災害時福祉理解、機材運営班による夜間訓練の実施、地域の力を活かして藤塚小学校の学習支援するホットプラスの発足他、次々



藤塚太鼓20周年

と新しい取組が加わり、住民のさまざまな力をまちづくりにつなげ願の見える関係が促進されました。今年度、当地区連合・地区社協は10年目を迎えます。また保土ヶ谷区は区制90周年を迎えます。この節目の年に今井の丘公園新桜ヶ丘集会所が建設され、また農園つきの今井の丘公園も整備開園しました。新たなコミュニティ、新たな活動の広がりを感じさせる年度の始まりです。新桜ヶ丘で暮らすすべて楽しいかも！



藤塚小花畑利用の田んぼ



夜間訓練(トイレ組立)



今井の丘公園新桜ヶ丘集会所

権太坂境木地区 連合自治会

権太坂境木地区のわがまちは、箱根駅伝で全国的に地名が有名になった権太坂と、武蔵の国と相模の国の境に位置する境木から成っています。地域のシンボル境木地蔵には、近年で

は一年中、見学者が絶えません。江戸時代当時は隠所であった権太坂を登り切り、ここで、やっと一息。そこには休憩場所である立て場があり、そして、境木地蔵があります。



権太坂



境木地蔵尊

西に富士山、東に江戸湾を望む景観が素晴らしいことと、さぞ防れた人達は、この場で癒されたことでしょう。

連合自治会は8自治会で構成され3000世帯の方が住んでいます。

境木よれあいの樹林では秋の落ち葉感謝祭、春のフェスティバルで各種模擬店の出店、なかでも餅つきには毎回行列が出来ます。子ども対象のゲームや遊びでにぎわいます。



感謝祭



各自治会ごとに色々な行事を行っています。特に夏祭りには地域の小学校、中学校と連携して、各種行事を行い、大勢の人が出てにぎわっています。

祭りの中で東日本大震災復興支援の一環として平成25年から気仙沼の海産物の販売の手伝いを行っています。なかなかの人気でこれからも継続していきます。

私達の町内でも少子高齢化が進み、坂道の多い土地がら路線バスの町内迂回路線の要望が強く長年の懸案でした。幸い区制90周年に合わせて平成29年10月1日からテスト運行が実施されることになりました。



夏祭りの神輿



新たに設置されたバス停



感謝祭



権太坂 浮世絵



堀木 浮世絵

岩井町原 連合町内会

岩井町原10年の歩み

岩井町原地区は、地域の園児も通う岩井保育園、児童が通う富士見台小学校、岩井原中学校があり、ほかに清風高校、町内の高齢者も入居している特養ホーム太陽の国、聖隷病院と付属するエデンの園があり、大きな店舗のない住宅地であります。



マーじゃん



体育祭

地域は、保土ヶ谷駅に近く通勤通学に便利な恰好の住宅街です。この10年で特筆すべきは、平成26年5月に第三町内会が連合に参加して、1く



敬老祝いの落語

5町内で約1600世帯となり、集合住宅も建てられ居住が少しずつ増えてきたことです。

地域連合としては、従来から、地域の子どもたちや高齢者が絆をもつて毎日が楽しく暮らせるよう、各種クラブを開催しています。主任児童委員により、小学校の児童も参加する子育てサロンや、学援隊による小学校児童の見守りをして、積極的に小・中学校との相互連携を続けています。高齢者の楽しみのため、民生委員・あんしん訪問によるミニデイサービス食事会や楽しい敬老祝いを開催しています。また、いつでも楽しめるパソコン教室、マーじゃん、クラフト、フラ



パソコン教室

ワーアレンジメントクラブやカラオケ教室などを行ってきました。全地域による納涼盆踊り大会、子ども神輿、秋の大運動会、晩秋の子ども冬まつりでの餅つき大会など、近隣地域の方々も楽しく参加できる事業も、盛大に継続開催してきました。平成25年よりミニ青年の主張 ボイス・オブ・富士見台☆岩井町を開催して地域の絆を深めて、楽しく・安心・安全に暮らせるまちを目指しています。「いつまでもすみやすいまち 岩井町原」です。



餅つき



盆踊り



Wボイス・オブ・富士見台☆岩井町



横浜市児童遊園地

岩間地区 連合町内会

さらに交通便利で見守り
のある安全・安心なまちへ

星川駅周辺から天王町駅、旧東
海道に沿い保土ヶ谷駅近くを合
む、帷子川・今井川と高台、戸建住

宅街と高層住宅、ビジネスパーク
と、多彩で便利なまちで、1万世帯
以上、2万人以上が暮らし、若年層
が平均より多いものの高齢化も進
んでいます。



空から見た岩間地区



相鉄立体視察

平成29年3月、相鉄線星川駅下り
ホームが高架になりました。天王町・
星川間の踏切除却により、区役所や
大型商業施設への連絡がよくなるの
で高架化の全面完成が楽しみです。
地区では相鉄立体化事業対策部会を
組織し、説明会及び住民見学会に取
り組んでいます。

地域では、高齢者食事会、子育てサロ
ンといったボランティア活動が活発で、
「孫・子・老」三世代300人以上が集
うミニ運動会も毎年開催、見守りを進



ミニ運動会

めています。平成25年度から地区全体
で防災・見守りをテーマに話し合い、意
見や提案を第3期ほつとなまちづくり
(区地域福祉保健計画)地区計画に反
映し、区社会福祉フォーラムや横浜市
自治会町内会研修会で発表団体にも
選ばれました。また、日頃から17町会の
火災防災意識を高める行動により、1
年半の連続無火災を達成し区長表彰
されました。平成29年9月には5千世
帯以上1万世帯未満の二年間連続無火
災として消防局長表彰を受けました。



ほっとなまちづくりフォーラムで発表

そのほか、旧へそ広場にイベント・スポーツ広場のある星川中央公園が全面オープン、毎年5月の花フェスタのにぎわいも増すことでしょうか。その地下には、豪雨から市民を守る容量42500m³の雨水調整池が完成、供用前には地下調整池で星川小学校児童がお絵かきイベントに参加しました。平成29年現在、調整池に接続する神戸雨水幹線を施工中です。



地下調整池供用前のお絵かき



星川中央公園

中央連合 町内会



中央地区を俯瞰する

中央地区の今

中央地区は地区内の真ん中を通る国道16号線を含んで、天王町、宮田町、川辺町、峰岡町（3丁目は除く）の4町内で構成され、約40000世帯、約19000人が住んでいます。

そのうち川辺町には区役所、警察、消防、郵便局などの官庁や大型スーパー、相鉄・星川駅があり、生活しやすい環境からこの10年間に大型マンション建設が相次ぎ、若年層の転入が顕著の若いまちになりました。

それ以外は戦前に成立した歴史あるまちでもあるところから、ゆつたりした人情厚い住みやすい地域ですが、年々高齢化率が高くなり75歳以上の



中央地区内を通る国道16号(無電柱化でスッキリ)

一人暮らし世帯、高齢者夫婦だけの世帯が増えています。そのため民生委員を中心とするあんしん訪問事業にも力を入れています。

また、古い家屋の建て替えも進んでいます。道路の幅も狭く木造家屋が密集して、防災に懸念があるのが現実です。したがって各町内では防災訓練には熱心ですが、自治会・町内会の運営なども、担い手の高齢化に

よって維持するのに苦労しています。しかし歴史古い町々ですから、祭礼、盆踊りなどの伝統行事はどの地域も盛大に行われています。

特に天王町の祭りは彌衝神社の地元であることから、商店街に露店が並んで区内外からの多くの人でにぎわいます。宮田町の松原商店街は旧東海道沿いに多様な商店が並び、買い物客が押し寄せていつもにぎわっています。



山の上まで住宅が建つ峰岡町1丁目



実現した相鉄線下りの高架化と現状の上り階車



新築ラッシュの峰岡町2丁目



峰岡町一丁目は国道16号から山側にかけて宅地が開けており、家が整然と建ち並ぶ光景は壮観です。峰岡町二丁目では3年ほど前から住宅やアパートが取り壊され、そのあとに新築住宅が次々と建つという建築ラッシュを迎えています。



川辺町に立ち並ぶマンション群



多くの人が繰り出す天王町の祭り



買い物客で賑わう板原商店街(宮田町)

中央東部地区 連合町内会

この10年も引き続き
福祉に力を入れて
活動してきました

①地区社協が中心となり身体障害者とその家族とでレクリエーションを毎年行い、今年で31回となりました。



身体障害者・家族とのレクリエーション

②子育て支援・子供会支援
子育て支援の活動



③一人暮らしの高齢者対象の食事会
や昼間一人になる高齢者対象のお話し会を行っています。
毎月行っている食事会が、27年間で300回を超え地区社協から感謝状を授与されました。



感謝状授与

④平成21年に救命情報カプセルを全世界に配布。多くの人を助けています。
一人暮らしでも、子どものみでも、緊急時に素早く救急隊が対応できるようになりました。



食事会

主な活動

【峰沢岡沢町自治会】

ペンギンさん

赤ちゃん教室ふふ

ゆうゆうサロン

【鎌谷町自治会】

子育てQ&A

バビーズサークル

ふれあい鎌谷

【岡沢町自治会】

ことり

笑話会

【峰沢団地自治会】

でこぼこキッズ

【桜美林ハイツ自治会】

ひまわり

【桜台ハイツ自治会】

エンゼルス

【地区社協】

ボランティアグループ茜会



平成28年度連合町内会グラウンドゴルフ大会 平成29年3月9日 静岡県裾野市 大野路公認コース



救命情報カプセル

和田・釜台地区 連合町内会

1 防災訓練

地域防災拠点での防災訓練では、保土ヶ谷中学校の2学年全員が参加し、地域防災に貢献する意欲を高めています。参加者は中学生に加え、地域住民、行政関係者も参加しました。



中学生による担架運び訓練

係者、さらには身体障害者の方々も含め、総勢約600名となりました。訓練を通じて自助・共助を学び、更なる地域防災力の向上に努めています。

また、区民会館の協力により「災害図上訓練DIG」を実施、リスクコミュニケーション、事前の危機予測の把握、地域住民の災害時連携等を学習しました。

2 連町フェスティバル

スローガンは

「この街がすきですーだから集います」

イベントは常盤台小学校のマーチングバンドの演奏でスタートし、アイスブレイクによる「玉入れ」を全員参加で競い合い、引き続きグラウンドゴルフ、手芸体験、工作・風船ロケット、



保土ヶ谷中学校吹奏楽部演奏と観客

シャボン玉遊び、子供会のおもちや・文具の販売、地元農家のとれたて野菜の販売、消防団による的あてゲーム・記念撮影等々……みんなで楽しみました。屋前には豚汁、おにぎりも配られました。最後に保土ヶ谷中学校吹奏楽部の演奏を楽しんで閉会式となりました。

これからも、色々なイベントを通じて地域の住民同志がつながりを持つことを大切にしていきます。なお、平成29年度は保土ヶ谷区制90周年記念イベント「保土ヶ谷クイズ」を閉会式前に併せて実施し、「記念冊子」を全員に配布しました。



90周年冊子

3 ワールドカフェ

平成27年度に第3期「ほっとなまちづくり」の目標を地区の住民みんなで考えるため、第1回ワールドカフェを実施しました。60名程度の参加者でしたが、熱心に議論が進みとても好評でした。その結果3つの目標を決めました。

- ①若い人達や商店街と連携していく。
- ②気軽に立ち寄れる「たまり場」を作る。
- ③誰でも自由に集い、語り合える機会を作る。



ワールドカフェでの話し合い風景

平成28年度には第2回を実施し、3つの目標について更に議論を深めました。平成29年度は平成30年2月に第3回目を実施予定です。

ワールドカフェは、目標③の地区住民が自由に参加し語れる場として機能し始めています。

4 餅つき大会

毎年12月には和田・釜台地区の5町内会・自治会それぞれで餅つき大会が行われます。

釜台町自治会では、自治会と子ども



釜台町自治会子ども餅つき風景

会の共催で行い、町内の小学生以下の子ども100名近くが全員餅つきを経験します。和田西部町内会では、餅米200kgをつき、付き手や手返しの手張りは相当なものです。

5 「納涼祭」と「秋のお祭り」

釜台町自治会では7月に毎年恒例の「納涼祭」が開催され、常盤台小学校の校庭には2000名以上の参加者が集まります。(ルネ上星川自治会も協賛参加)

和田西部町内会では9月に「秋のお祭り」があります。催し物が豊富で、我



釜台町自治会の「納涼祭」



和田西部町内会の「秋のお祭り」

が地区の夏の風物詩としてなくてはならないお祭りになっています。

6 和田・釜台地区の 社会福祉協議会の ボランティア活動

地区の社会福祉協議会では、70歳以上の高齢者を対象にした3つのボランティア事業を女性ボランティアを中心に継続実施しています。

- ① ふれあい食事サービス(年12回)
 - ② 配食サービス(年24回)
 - ③ ミニ・デイサービス(年11回)
- 担い手の高齢化、担い手不足の課題を

抱えながらも、我が地区のボランティア事業の担い手は頑張っています。



ふれあい食事と調理風景



松花堂弁当に仕立てた手作り弁当



手芸作品

7 地区の広報誌 「はあとびあ」の再発行準備完了

廃刊になっていた広報誌「はあとびあ」ですが、広報誌作成準備委員会により、平成29年3月に準備号を発行しました。平成29年度は1回/年(準備2号)、平成30年度からは正式に再発行をしていく予定です(2回/年)。負担にならない継続可能な活動を目指していきます。

上星川地区 連合町内会

「上星川地区」に住んでいて
よかったですと思えるまちに

国道16号線、相鉄線を挟んで南側に帷子川、北側は坂の多い地形の上星川地区は二丁目～三丁目で構成され、約六二〇〇人、約三〇〇〇所帯が暮らしています。高齢化も進み安心して暮らせるまちを目指し活動をしています。

ほっとするサロン上星川

和田町地区から独立し、「ふれあい給食サロン」を経て平成25年度からは、上星川会館にて「ほっとするサロン」を開店いたしました。65歳以上なら誰もが気軽に立ち寄ることができ、お友達も



参加OKのサロンです。軽食・飲みもの付お一人様百円でおしゃべりやイベントに参加し皆さんの交流サロンが始まりました。障がいのある地域作業所で働く「とうふ工房夢21」のとうふ販売



も皆さんに喜ばれています。現在では毎月1回ずつ、3地区のそれぞれの会場で順番に開催しています。

敬老月特別企画

『三吉湯芸場編劇』
三吉湯芸場へ送迎無料でご案内し、毎年50名ほどの参加者皆さんに、楽しんでいただいております。

配食サービス

毎月第2・第4金曜日に町内の皆さんに手作りお弁当をお届けいたします。希望者には1食300円で配達いたします。美味しいと好評です。

ミニデイ上星川

午後の短い時間ですが、歌、手話、工作などで、皆さんと共に楽しいひとときを過ごしております。



まらまらほし (子育てサロン)

0歳～3歳のお子さんを対象に子育て中の保護者の友だちづくりやふれあいの場を提供しています。毎月第

1 水曜日10時〜11時半まで上星川幼稚園で実施しています。

上星川音頭誕生

未来の子どもたちに残していきたい
ご当地音頭「上星川音頭」。馴染みの
場所が登場しノリがよく、4番まであ
り盛り上げられる曲になっています。



♪星の子集まれ♪

町内の盆踊りでは、子どもさんの
参加が増え、やぐらの上は職員で嬉
しそうな笑顔で上星川音頭を踊って
おります。

『作詞 藤巻弘枝 作曲 成瀬みのり』

1 東に坂を登れば貨物船

釜壇山トンネルに幼稚園

笑顔溢れるこの場所は

国道16号線を挟む町

帷子川にはカモ遊び

星の子 集まれ

老いも若きも輪になって

ソレソレソレ 上星川音頭

2 西に三つ子団地 愛の町

相模鉄道 踏切を電車が通過

緑 豊かなこの場所は

国道16号を挟む町

帷子川にはカワセミも

星の子 集まれ

老いも若きも輪になって

ソレソレソレ 上星川音頭

3 南に音擦染 今温泉

駅前商店にスーパ―に

西群橋の交番と

国道16号を挟む町

帷子川には鯉のはな

星の子 集まれ

老いも若きも輪になって

ソレソレソレ 上星川音頭

4 北に丘の上には富士山

ピニールハウスに東光寺

杉山社の盆踊り

国道16号を挟む町

帷子川に鯉泳ぎ

星の子 集まれ

老いも若きも輪になって

ソレソレソレ 上星川音頭

上星川音頭



【保土ヶ谷区地域・まちづくり活動支援事業】

常盤台地区 連合町内会

常盤台地域は「連町」と共に大きく変わりました

—「連町」と地域の10年間—

1. 「会則」を全面的に改正しました(2006年)

1972年(昭和47年)に連町(連合町内会)発足と共に制定施行された会則は、2006年(平成18年)に全面改正を行いました。この改正は常盤台連町の変革元年ともなりました。

主な改正点は従来の自治会長(11名)だけの役員に加えて、公的機関から委嘱されている各団体の長(地区社会福祉協議会会長、地区青少年指導委員会会長など)10名、地域内に存する公的

法人の代表(横浜国立大学等)及び役員会で認められた個人をも含めて役員とし、総計25名程で運営されています。

2. 誰もが会する場所「常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス」が建設開所されました(2009年)

2009年(平成21年)常盤台地区の活動拠点施設である「常盤台地域ケアプラザ」と「常盤台コミュニティハウス」が合築という形で建設され開所しました。この施設の建設は常盤台の地には公共施設が全くなかったということから、歴代会長及び役員が「地域最大の課題」として、長

年にわたって努力を続けてきた賜物です。全ての活動は、この施設から生まれていると感謝しています。



建設に当たって模型で外観色・敷地内の緑の配置等をワークショップで検討(国大で2008年)

3. 横浜国立大学との共存が確立できました(2009年)

名門「ゴルフ場」程ヶ谷カントリー倶楽部が旭区に転出(1967年)してその跡地に「横浜国立大学」が建設され、その後徐々に移転が進み、1979年(昭和54年)に完了しました。常盤台地域全体の41%を占める大学地籍、約11000名の教職員と学生数(2016年現在)との共存は欠かせない課題でした。そんな中2009年、大学の環境も大きく変わり、連町との真の交流が始まりました。現在では双方が窓口を一本化して諸問題の解決を図ると共に、毎月開催の定例会には連町の役員として大学の総務部長が出席されています。



横浜国大構内バス開通1周年記念
国大鈴木学長及び全役員と連町役員(2011年)



連町主催納涼盆踊りに国大留学生も参加(2008年)

4. 神奈川東部方面線 羽沢駅(仮称)の建設工事が進んでいます(2009年)

2006年(平成18年)に新線設置が発表され、2014年(平成27年)に開業が予定されていきました。その後、諸般の事情で4年先に延期され平成31年(2019年)開業の予定となりました。新駅(仮称羽沢駅)は隣区の神奈川区にはありますが、常盤台地区は隣地ということでプラスマイナス両面で大きな影響を受けます。マイナス部分は改善すべく関係者全員の努力が必要ですが、まずはプラス面を見て、尚一層の地域発展につなげていかなければなりません。



駅建設前(奥の倉庫部分2006年)



地下建設(ホーム・トンネル)は完成し
駅舎と構内施設の建設を待つ(2016年)

5. 「郷土の歴史と 常盤台連町40年」が 発行されました

(2012年)

2010年(平成22年)連町事業として初の歴史書発行が計画され、

多くの困難を乗り越えて2年後の2012年(平成24年)に「郷土の歴史と常盤台連町40年」(75頁一部カラー)が発行されました。また、変わりゆく常盤台の様子を次世代に伝承し、郷土愛増進の一助となることを願い、本書と本書に掲載できなかった常盤台地域に関する貴重な資料と写真を「資料編」・「写真編」としたCD(全カラー)を添えました。



6. 「常盤台連町の ホームページ」が 開設されました

(2014年)

平成26年、年々盛んになる連町の活動を地域の多くの皆様に理解していただくために、広報紙だけではなく、ホームページ上でも随時情報を

お届けできるようにと「常盤台連町のホームページ」が開設されました。HPの立ち上げから、デザイン、編集まで自前で運営しており、毎月定例の編集会議を開き、地域の情報発信の場として、内容も充実してきています。



編集会議(平成28年)



川島東部 連合町内会



川島東部連合町内会の歩み

川島東部連合町内会(以下川島東部)は6町内会から構成され、人口7100人、世帯数約3400世帯、高齢化率25.0%(区25.2%)H27年現在です。

川島東部の基本理念は「随行事や活動をとおりて会員の皆様の親睦を深め福祉の発展に協力していくことを願い、安全・安心なまちづくりを目指していくことです。」

あいさつで地域に広がる 笑顔の輪

●川島東部地区社会福祉協議会による地域のつながり標榜でもある



研修旅行

「地域の絆・つながり」を意識した活動をしています。さらに保土ヶ谷ほつとなまちづくりの活動として、よれあいウオーキングをこれまで4回実施しており、大変好評でした。

●川島東部では秋に大運動会を行っています。

今年で第46回を迎え、区長さんも激励に来て頂き、なんと延べ2300人による参加を頂いており、これも会員の皆様、大変楽しみにしています。

●川島東部では連合役員員の研修旅行や女性部による日帰り旅行も実施しています。

総会が終了すると共にバスの手配や、行先の検討など、担当の役員も頑張っています。

このように、伝統を受け継ぎ協力的に親睦を深めています。

また、旧くぬぎ台小学校跡地検討委員会が発足して、今年で4年目に入り、施設の有効活用を模索し、川島原地区連合会と共同して検討しています。

写真



トンネル見学

そして、神奈川東部方面線の西谷駅周辺住みよいまちづくり連絡協議会にも加わり、今年で8年目を迎えます。

工事の遅れもありますが、行政各機関・鉄道関係の方々にも説明などを頂きながら、地元にも説明を行っています。トンネルの見学会なども活動の一端です。通年の諸行事を充実したものとさせるとともに、地域の抱える問題を地域一丸となり解決していきたいと願っております。



東部方面線



区の間 カルガモ

仏向地区 連合町内会

仏向地区連合町内会 における保土ヶ谷区の 直近10年間の歩み

仏向地区連合町内会は、仏向町内会、コンフォール仏向町自治会、仏向町陸ヶ丘自治会、坂本町内会、水道山町内会、星ヶ丘自治会、星の丘ビニシティ自治会の7つの自治会・町内会で構成され、区のはば中央に位置し、帷子川流域の低地と丘陵部からなっています。相鉄線の和田町・上屋川両駅の南側に、駅から坂を上っていく地形に沿って広がり、自然豊かで、ミカン狩りや芋ほりなども楽しむことができます。また、昔からの歴史や史跡、文化財も豊富

なところでもあります。人口動態は、15歳未満の割合が区の平均より高い状況ですが、高齢化率も年々増加する傾向にあります。

当連合町内会のトピックス及びまちの移り変わりは、次の通りです。

1. 仏向原坂回り路線バス(22系統追加ルートの新設)が、平成22年3月22日(月)から運行が開始されま

した。宅地開発が進み人口も増加し、高齢化も進んでおり地域住民が強く要望していたものです。現在は、午前・保土ヶ谷駅西口行きが2便、午後・和田町駅行きが2便の4便となっています。



路線バス開通祝賀会(H22/3/22)バス出発時

2. 仏向西部地区(水道山町内会、星ヶ丘自治会、星の丘ビニシティ自治会)の住居表示が平成22年12月「仏向町○○○」から「仏向西○○○」に変更されました。

3. 平成19年「仏向団地」が「コンフォール仏向町」に生まれ変わりました。15棟(5階建て)で約580軒あったものが、3棟(一部13階建て)に縮小されて高層化され約350軒になりました。また、近くに神木前公園や高層マンション(シティテラス)、コン



コンフォール仏向町



高層マンション(シティテラス)

ビニなどができ、夜も一帯が明るくなり過ごしやすくなりました。

4. 平成22年2月 仏向町陸ヶ丘自治会館に「太陽光発電システム」を設置

しました。横浜市が平成21年度自治会・町内会に「太陽光発電助成制度」を4棟分子算化され、その1棟分を
利用しました。



仏内町陸ヶ丘自治会館の屋根に取り付けた太陽光パネル



仏内町陸ヶ丘自治会館の屋根に取り付けた太陽光パネルの全景

発電能力：4.16kwh、年間発電量(予想)：3736kwh

5. 仏内町陸ヶ丘自治会は、平成19年よりも自治会員27ポイント増加、小学生220ポイント増加しています。一方、高齢者(70歳以上)はほぼ横ばいです。また、グループホームも増えております。平成24年4月には認知症高齢者グループホーム「ちいさな手 陽だまりの丘 横浜保土ヶ谷」、平成26月3月にはグループホーム「おきな草」「福寿草」、平成27年9月にはグループホーム「サンハイム陸ヶ丘」が造られました。

全部で6施設が設置され、賛助会員として自治会活動に参画しています。



川島原地区 連合会

親睦を兼ねて

3年に1回のバスハイク

川島原地区連合会は、横浜唯一の陣ヶ下溪谷のせせらぎと旭区との区界に位置し、8自治会町内会、会員1500世帯、絆を大切に誰もが安心安全を享受できるまちづくりを標榜し活動しています。

保土ヶ谷区制90周年をキーワードに連合会活動を振り返ってみると、区制80周年から10年の歩みを公助となげ、自助共助の住民相互のつながりを定期的なイベント、連合会主催のバスハイクで各地の名所旧跡を訪ね親睦の和を広げてきました。



親睦の絆を通して地域の安全安心を担保するための防犯防災路上駐車パトロールを20年にわたり継承し、月1回の地道な夜間パトロールには警察、消防、行敢と共に協力し合い、域内の路上駐車車両ゼロ地域まで、住民の協力で成し遂げられました。



冬：出発前の準備確認



夏：汗かきパトロール

くぬぎ台小学校閉校

少子高齢化の波は当地域連合にも押し寄せ、昭和46年に団地と共に閉校した小学校も40年で廃校となりました。子どもたちの弾む声のない無機質な校舎が残されましたが、私たちは再び息を吹き込み、再生に向けて立ち上がりました。地域、行政、大学と跡地検討委員会の立ち上げです。廃校から4年になりますが、2年前から市の助成金を得て、小学校の統廃合による廃校後の学校を活用した施設を実際に見て、施設見学を重ね、区制90周年に合わせて再活性化、再活用化に向けて詰めの検討に入っています。学校という場所に集う子どもたちを地域の懐に、子育て世代から高齢者まで温もりのあるまちづくりに取組んでいます。公的施設の少ない地域にあって人と人との思いやりを大切に地域でできることを模索したまちづくりを目指しています。



—くぬぎ台小学校跡地の 利活用を目指して—

川島地域のまちづくり検討会円卓会議

- ・まち自慢部会
- ・伝統文化ツーリズム部会
- ・スポーツイベント部会
- ・道・交通部会



西谷 連合町会



西谷連合町会の 直近10年間の歩み

1. 「認可地縁団体」として 法人化の認可を受けま した

平成26年4月に保土ヶ谷区長から認可地縁団体として法人化の認可がおりました。連合町会としては保土ヶ谷区では第一号であり、横浜市としても四番目と聞いております。

平成3年4月に地方自治法の改正により、自治会・町内会の団体名による不動産登記が可能になったことにより申請をいたしました。

法人化するに至った経過とその対応などについて述べます。

西谷町には先達の努力により不動産を4カ所所有しております。不動産登記については、名義人変更の際して登記料が必要になります。評価額の数%ではありますが、その都度の登記料金は莫大です。当連合町会では、社社の不動産の登記料金が大きく、代表者の変更のみで済ませる方法として法人化を検討することとなりました。

平成25年4月から区役所の担当の方と数回にわたる検討を重ねた結果、認可を受けるに値するとの評価を得ることができました。

平成25年9月に西谷連合町会運営委員会にて趣旨説明を行ない、各単位町会から町会役員に趣旨説明の上、10月下旬から賛同者署名活動を開始、住民の約70%の賛同を得ました。署名活動に当たっては、各町会の班長に丁寧な説明をして疑問点の解消に務めました。そして12月に構成員名簿を作成することができました。

平成26年1月、従来の代議員を対象に臨時總會を開催しました。資産の明確化、構成員の確定、代表者の決

定、新たな規約などを諮り、出席者の賛同を得て申請書類の作成に取り組みました。また法人化後の町会活動などは従来と変わらないことを強調しました。

そして平成26年2月、区役所に所有財産目録、構成員名簿、改訂した規約を提出し、審査などにより平成26年3月に法人化が内定し、4月に区長から正式な書類を受領しました。

平成26年5月には第一回連合町会總會を開催しました。会員への總會案内が大変な作業でしたが、各町会から支援者を出してもらい乗り切ることができました。

今後は構成員の変更確認が毎年必須となり、従来の總會に比べて準備作業が膨大なものになったのはやむを得ないところです。



法人化によるメリットは登記費用などの料金が激減することであると、代表者の変更だけで不動産などの管理が容易になったことと考えています。

2.「西谷駅周辺すみよいまちづくり連絡協議会」を発足しました

西谷駅が東部方面線を通じて、JR、東急との結節点になるのを見越して、平成20年4月に「西谷駅周辺すみよいまちづくり連絡協議会」を結成しました。メンバーは西谷町各町会長、近隣の連合町内会、自治会会長（上新地区連合町会、川島東部連合町会、川島原連合町会、上菅田連合自治会は平成29年4月から）、地元や近隣の有志の方々で



西谷トンネル見学会2014.07.17午前の様子（西谷駅周辺すみよいまちづくり連絡協議会）

た。運営予算は西谷連合町会と近隣の各連合町内会からの協賛金を充当しています。

西谷駅と羽沢駅（仮称）間のトンネルが完成したことを記念し、各町会有志による見学会なども実施しました。

平成32年の直通線の開通を西谷及び地域住民が待ち焦がれているところです。

3.「フェスティバル in 西谷」の開催

西谷連合町会として最大行事の一つは西谷フェスティバルです。今年で21回目を迎えました。保土ヶ谷区の後援を頂いていること、区長はじめ多くのご来賓の臨席を仰ぎ開催できることに感謝しています。

す。以来年に数回の会議を持ち、西谷駅周辺のあるべき姿について検討を重ねてきました。特に西谷駅北口、南口の整備、バス路線などが主たる議題でした。横浜市からコンサルタントも派遣してもらいました。また市役所、区役所や相模鉄道、鉄道運輸機構の関係者の方の出席を頂きアドバイスをもらいました。活動内容は毎年協議会ニュースを発刊し、近隣住民の方々に配布しまし



上新地区 連合自治会

上新地区10年間の歩み

保土ヶ谷区の北部に位置する上菅田町と新井町からなる上新地区は、かつては静かな農村地帯として、歴史を刻み昔から地域社会のつなが

りを継承してきました。行事の一つ一つは地域社会や自然に対する、共感と感謝の思いを皆で守り13自治会が一体となり活動を進めてきました。が、地域課題は地域内で解決する流れがますます強くなって参りました。

た。自治会運営に関しましても「地域住民全員で運営する自治会」へと大きな変革期を迎えるなか、分閉の案が出て丸4年、その間紆余曲折ございましたが、昨年4月1日より別々の道を歩むこととなりました。活動の原点は昨年47回目を迎えた「体育祭」。港北区の時代から続けられ、途中何回か中止もありましたが先人達が守り受けついできてくれたこの精神を今日まで受け継ぎ守り続けることができました。これは地域の誇りと思っております。



体育祭



体育祭

上新地区社会福祉協議会でも「地域主体による地域の課題解決」に向け、住民が集まる機会を大切にして活動を続けております。平成17年に行政から「ほっとなまちづくり」についての説明があり、上新地区でも委員会を立ち上げ平成18年に郷土に愛着を持つてもらおうと地域の名所史跡を訪ね歩こうと歴史探訪を行いました。この歴史探訪が好評だったことから、のちの健康ウォーキングへと活動が繋がっていきました。



健康ウォーキング

ほっとな 福祉・健康まつ

■主催 上新地区社会福祉協議会、周辺市町村福祉づくり・ほっとなまちづくり委員会
 ■後援 上新地区連合自治会、保土ヶ谷区役所、伊土ヶ谷区社会福祉協議会、上新地区ケアプラザ



ほっとな福祉・健康まつり

平成20年に上新地区の住民を対象とした「福祉健康まつり」を開催したところ、同年横浜市の「身近な地域・元気づくり事業」のモデル地区に指定され、これまでの子どもや高齢者のみを対象とした活動だけでなく「地域の皆が集まる機会をつくり、地域を元気にしたい」という思いから特に健康づくりに力を入れて活動してきました。昨年で9回目を迎え一人でも多くの人が行事に参

加し、みんなが顔なじみになれば、それが地域の力になると思い、できることから少しずつ皆で力を合わせて目標達成に向かって歩んでいます。

昨年4月1日、新井町内の2自治会のみで連合自治会を構成することとなりましたが「上新」の名をそのまま残すこととなりました。二つの自治会で連合を組んで世間並みの組織作り地域づくりができるか心配をしましたが、開けてみると、誰かがやる自治会から、自分たちがやる自治会に意識が変わってきました。これまでも増して「オール新井町」で地域福祉や自主防災などの地域課題を解決できる風土を醸成していくことにつなげることができればと考えております。



民生委員・児童委員

上菅田地区 連合自治会

上菅田地区のこの10年

保土ヶ谷区の北部に位置する上菅田は従来より緑の多い静かな住宅地です。

その後もこの10年間で少なくなりその代わりに戸建ての住宅が多くなり若い世代の方たちが増えてきております。

その一方で市街化調整区域がありここには新しい住宅はできず、畑や緑がまだあります。少子化は解消されつつありますが、高齢化は進んでおります。

高齢者が楽しく暮らすことができようないろいろな対策は取られております。商店街は昔の面影か

らは悪い状況です。道路は狭く危険です。開発されて半世紀が過ぎようとしておりさまざまな課題が出てきております。お互いに協力しながら全ての世代の人々の知恵を結集して将来に向けたまちづくりプランを考え、そして実行する時期に来ていると思われれます。

保土ヶ谷区制100周年のときには保土ヶ谷区で一番住みたいまちになつていふことを期待いたします。



祭禮八幡神社



体育祭



体育祭

祭禮八幡神社



祭禮八幡神社



盆踊り



体育祭

小松成美

保土ヶ谷区制90周年に寄せて



保土ヶ谷区区制、90周年おめでとう
ございます。私は保土ヶ谷区に生まれ、
この地で成長しました。今も保土ヶ谷
区民です。区制90周年に際し、寄稿の
機会を得ましたので、ここに保土ヶ谷
区への思いを綴りたいと思います。

私が生まれたのは天王町の産院でし
た。昭和30年代半ばを過ぎたばかりの
頃、保土ヶ谷区には長閑な田園風景が
広がっていました。子供時代の私は健
康で好奇心に満ち、本を読んでいるか、
外を駆け巡っていました。とりわけ野
山は最高の遊び場で、キャベツや菜の花
の畑でモンシロチョウを追い掛け、田ん
ぼでメダカやオタマジャクシを獲り、近
くの里山で鳥の観察をしたり植物採取
をしたりしたものです。商店街はまだ

小さなもので、食料品や衣料品の品数・
品揃えは今とはほど遠いものでした。
私が着ていた洋服はほとんどが母の手
作りでしたが、それもいつも泥だらけで、
新しく買った全自動の洗濯機が日々、
音を上げて回っていました。

1970年代の高度成長期にさしか
かると、豊かさの足音は一気に大きくな
り、街は急速に変化を遂げていったので
す。J.Rや相鉄線沿線を中心に開発が進
み、商業地・住宅地としての賑わいを見
せていきました。山が切り開かれ大きな
団地や新興住宅地に美しい街並みが誕
生していくと、街にはたくさんの子供た
ちとその家族の音が響きました。
私が、小学校時代に熱中したのはス
ポーツ観戦です。広大な保土ヶ谷区はス

ポーツの施設に恵まれていました。県立
保土ヶ谷公園には、高校野球で甲子園
予選が行われる保土ヶ谷球場を始め、
ラグビー場、サッカー場、テニスコート、
体育館などがあります。特に高校野球の
神奈川県予選は、春も夏も私にとつての
一大イベントでした。プラスバンドの演奏
が鳴り響く満員の保土ヶ谷球場で繰り
広げられる硬式野球のゲーム。投球の一
球、打者のフルスイング、走者のヘッド
スライディングに胸を高鳴らせ、歓声を
上げました。保土ヶ谷球場でのゲーム観
戦は高校生になっても続きました。

近年、阪神甲子園球場で行われる全
国大会を観戦した時に思い知ったこと
があります。それは神奈川県予選が特
別である、ということ。あれほど

の熱狂を巻き起こしている県予選会場
は他にはないと思います。後にスポー
ツノンフィクションを執筆する私の原点
は、まさにこの保土ヶ谷球場にありま
した。子供の頃に見た高校球児は、私
にとつて憧れであり、彼らの真摯なプ
レーと躍動がアスリートへの尊敬の出発
点でした。また保土ヶ谷区に隣接する
神奈川区の三ツ沢球場（現ニッパツ
三ツ沢球場）へは自転車漕ぎ、日
本サッカーリーグ（J.S.L）の観戦を
しました。古河電気工業サッカー部
日産自動車サッカー部、全日空横浜サッ
カークラブなどが試合を開催していた
当時、後のプロリーグ（Jリーグ）が
設立されることなど、まだ想像もでき
ませんでした。

別である、ということ。あれほど



スポーツへの愛情とともに私の心を鷲掴みにしたのは、保土ヶ谷区の歴史です。小学生の頃から歴史が大好きだった私は、教科書で「東海道五十三次・保土ヶ谷宿」を知り、中学生になると区内の史跡巡りをはじめました。図書館でコピーした古地図、また永谷園のお茶漬けのおまけに付いていた歌川広重の小さな浮世絵を手にも、我が家から程近い保土ヶ谷宿の本陣や脇本陣、茶屋本陣の場所あたりを歩いたのです。本陣跡や天王町の帷子川橋跡、権太坂など、それぞれの場所に当時の面影があり、將軍や参勤交代の列、商人や町人たちなど、江戸時代に行き交った人々に思いを重ねることが大好きでした。

作家になってから特別な興味をそえられる保土ヶ谷区歴史上の人物は、苅部清兵衛です。1601年(慶長6年)、徳川家康より、保土ヶ谷宿の本陣・名主・間屋の三役を任された初代・苅部清兵衛ですが、その名は当主に受け継がれ、1870年(明治3年)に本陣が廃止となるまでの約270年11代にわたって「苅部清兵衛」が名乗られました。いつか資料を紐解き、江戸を生きた保土ヶ谷区の基礎を築いた「清兵衛さん」を取材してみたいと思っています。

菜を栽培している苅部博之さんです。この直売所では畑で採れた新鮮な旬野菜を一年中手にすることができ、私はいつもその恩恵を受けています。苅部さんの名を全国区にしたのはオリジナル野菜の「苅部大根」です。東北地方の赤家地大根に他の種類を掛け合わせて改良を重ねたもので、紫、赤、ピンク、白の美しいグラデーションを見せる大根は、瑞々しく甘みがあり、有名レストランのシェフたちがこぞつて仕入れにやってくる。保土ヶ谷区で育まれた野菜を目にし、食する度に「横浜という大都会でよく育つたものだ」と感じします。そして同時に、大地の豊かさ、21世紀になっても代々の土地で農業が続いていけるということ、それこそが保土ヶ谷区の誇りなのだと思うのです。

数年後には、西谷を始発とする神奈川東部方面線(相鉄・JR直通線、相鉄・東急直通線)が開通します。都市の利便性と潰えない自然を有した保土ヶ谷区は、新たにこの地に赴く人々を悠々と出迎えることでしょうか。私も区民の1人として、未来に向け歩む美しい街づくりの担い手でありたいです。

小松成美 (ノンフィクション作家)

1962年2月25日神奈川県横浜市生まれ。専門学校で広告を学び、1982年毎日広告社へ入社。その後、放送局勤務などを経て、1990年より本格的に執筆を開始する。主題はスポーツ、映画、音楽、芸術、旅、歴史、伝統工芸など多岐にわたる。情熱的な取材と堅い筆致、磨き抜かれた文章にファンも多い。真摯な取材には定評があり、スポーツノンフィクションや人物ルポタージュに新境地を開いた。また講演会やテレビコメンテーターとしても活躍。

〔著作〕

- ・「中田英治 騎り」(2009年8月/幻冬舎)
- ・「勳三郎、荒ぶる」(2010年2月/幻冬舎)
- ・「若い人におくる龍馬のことば」(2010年6月/筑摩書房)
- ・「人の心をひらく技術」(2010年9月/メテオファクトリー)
- ・「和を繼ぐものたち」(2010年10月/小学館)
- ・「アストリット・キルビニア」(2011年4月/角川グループパブリッシング)
- ・「なぜあの時あきらめなかったのか」(2012年7月/PHP研究所)
- ・「対話力 私はずせそう同いかけたのか」(2012年9月/筑摩書房)
- ・「標榜白眉 試験の山を越えてはるかかなる頂へ」(2013年9月/学研教育出版)
- ・「仁左衛門恋し」(2014年12月/徳間文庫カレッジ)
- ・「全身女優 私たちの森光子」(2015年5月/KADOKAWA)
- ・「熱狂宣言」(2015年8月/幻冬舎)
- ・「五郎丸日記」(2015年12月/実業之日本社)
- ・「それってキセキ? GREENの物語」(2016年5月/KADOKAWA)
- ・「虹色のチヨーク」(2017年5月/幻冬舎)

中西美帆

90周年を迎える保土ヶ谷区へ

区制、90周年おめでとうございます。

私は小学生の頃に保土ヶ谷区に引越してきました。以来、今日まで保土ヶ谷区に住んでおります。

第一志望であった保土ヶ谷の高校に通う中で、映画好きの父から、学校の近くに「東京物語」の原節子さんが以前住んでいたことを聞ききました。そのことがきっかけで、「東京物語」を観て、衝撃を受けました。映画の中の原節子さんは、凛としていて品格があり、話す言葉の美しさに魅了された私は、原さんの他の作品や、同時代に活躍されていた若尾文子さんの作品を観るようになりました。

次第に、映画を作っている監督の



横浜スタジアム

名前が気になりました。小津安

二郎監督、黒澤明監督、成瀬巳喜男監督。同時に私自身の心に女優となり演じてみたいという気持ちが強

くなってきました。

ところが両親は大反対です。しかし、夢を諦めたくなかった私は、女優の「道」を歩む決心をいたしました。それからは1日に1本の映画を観ることを決めました。

それを可能にするために、横浜スタジアムでビール売りのアルバイトもしました。女優の勉強は、「人間を勉強にすること」にあると考えて、まず優れた映画を観ることから始め、優れた脚本、小説を読むようにしました。名作とよばれる文学作品からは学ぶことが多く、ドストエフスキの「罪と罰」では登場人物の心理を言葉で説明するのではなく、人物を客観的に描写することで心理

状態が見えてくるというのは、女

優としてとても勉強になりました。日常では経験できないことを本の中で学ぶことが大切だと考え、日々研鑽を積みました。

そして20歳になった時に、今の事務所と出会いました。すぐに女優への道を歩めると考えておりましたが、何事にも基礎が大事とそれから2年間俳優塾に入り、朝から終電の時間までみっちり演技を学び、日本舞踊、乗馬と身体に叩き込む日々を過ごしました。

このような経験を経て、2011年10月15日放送された松下幸之助翁の奥様を描いたNHKスペシャルドラマ「神様の女房」で、一人娘の



撮影 篠山紀信

幸子さんの役をオーディションで勝ち取り、デビューをさせていただきました。

松下幸之助翁の残しておられる、「失敗の多くは、成功するまでに諦めてしまうところに、原因があるように思われる。最後の最後まで、あきらめてはいけないのである」と

という言葉と出会い、以来、「成功の秘訣は、成功するまで諦めないこと」ということが、私の座右の銘となりました。撮影中に、私の演じた幸子さんご本人が、私に会いに来てくださり、松下幸之助翁の自筆で「道」と彫り込んである銀のコインをお譲りいただき、忘れられない思い出となりました。

小学生の頃に家族で保土ヶ谷区に引っ越して来なかったら、原節子さんが保土ヶ谷区に住んでいなかったら、「東京物語」を観ることもなく、この「道」を自分で選んでいなかったかもしれない。

保土ヶ谷区に引っ越してきたお陰で出会えた私の道。明日からもこの「道」を生涯かけて歩いていきます。

Profile

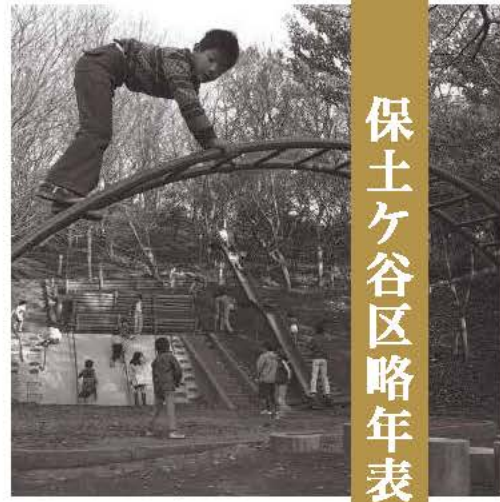
中西美帆 (女優)

1988年12月5日兵庫県神戸市生まれ。2009年舞台「奇跡の人」で女優デビューを果たす。2011年に「神様の女房」で松下幸之助の娘・幸子役で本格的にドラマデビュー。同年公開の映画「神様のカルテ」では勉強のために撮影現場を訪れたところ、深川栄洋監督の目にとまり、中西のために脚本に無い看護師役が設けられ、映画デビューを果たす。2017年公開の「東京ウインドオーケストラ」で映画初主演。

(出演)

テレビドラマ

- ・「神様の女房」松下幸子役 (2011年10月/NHK)
 - ・「めぐりあう時間」奥村亜希子役 (2012年3月/BSTW@W@V)
 - ・「永遠の泉」倉本芳子役 (2012年6月/NHK)
 - ・「黒の女教師」長崎瑞穂役 (2012年8月/9月/TBS)
 - ・「大河ドラマ 八重の桜」敏姫役 (2013年1月/2月/NHK)
 - ・「連続テレビ小説 純と愛」山田芽衣役 (2013年1月/2月/NHK)
 - ・「名もなき毒」五味淵まゆみ役 (2013年8月/9月/TBS)
 - ・「純」最後から二番目の恋」石田詩織役 (2014年4月/5月/フジテレビ)
 - ・「生きたい」たすけたい」三浦優里役 (2014年3月/NHK)
 - ・「東京が戦場になった日」神部佳織役 (2014年3月/NHK)
 - ・「Dr.倫太郎」小夢役 (2015年4月/6月/日本テレビ)
 - ・「風、江戸を疾る」おちか役 (2016年4月/NHK)
 - ・「獄門島」お小夜役 (2016年11月/NHKBSプレミアム)
- 映画
- ・「娘々クイメ」朝比奈利緒・伊藤梅役 (2014年8月/東映)
 - ・「ソロモンの偽証」
 - ・「前篇・事件 後篇・裁判」尾崎美穂教諭役 (2015年3月・4月/松竹)



◀横浜・近代水道100周年▶
横浜水道記念館開館記念式典

- 9015 「和名抄」に久良郡里川郷、都筑郡輪屋郷などの郷名がある。
- 1480 太田道灌の歌日記「平安紀行」に「帷子の地名がある。
- 1559 小田原北条氏の所領の記述「小田原衆所領帳」に、里川、仏向、保土ヶ谷、川島、今井の地名がある。
- 1601 東海道の宿駅の制度が定められ、保土ヶ谷宿が幕府の公認の宿場となり、本陣・問屋場が置かれる。
- 1648 新道（現在の旧東海道）ができ、宿場が移る。
- 1663 保土ヶ谷宿で大火、500棟が消失。
- 1707 富士山が噴火し、降灰のため凶作となる。（以後5回）
- 1831 葛飾北斎（1760～1849）が「富嶽三十六景」のうち「堀木」を作成。
- 1834 安藤広重（1797～1858）が「東海道五十三次」のうち「帷子橋」を作成。
- 1848 保土ヶ谷宿で山麓の賃借が禁止される。
- 1854 吉田松陰が保土ヶ谷宿に來宿。
- 1870 本陣、問屋場が禁止される。
- 1871 保土ヶ谷郵便取扱所が設置される。
- 1873 程谷学舎が設置される。
- 1884 保土ヶ谷、戸塚間の新道が完成。
- 1887 東海道程ヶ谷駅が完成。
- 1889 横浜市が誕生。
- 1915 西谷浄水場が竣工。
- 1927 保土ヶ谷町と西谷村が横浜市に編入。
保土ヶ谷区が誕生。
- 1929 横浜市児童遊園地が開園。
- 1933 神中鉄道（現在の相模鉄道）が横浜駅へ乗り入れ厚木～横浜間が開通。
保土ヶ谷駅東口が開設。市電との乗り継ぎが便利になる。
レンガ坂が完成。
- 1935 二俣川村が保土ヶ谷区に編入。
- 1939 市街地が空襲を受け、3200戸が消失。
- 1945 県営保土ヶ谷球場が開場し、巨人対東急の試合が行われる。
県立保土ヶ谷公園が開園。
- 1957 横浜新道が開通。
明神台団地が完成。
- 1969 市が10区から4区に再編され、保土ヶ谷区から旭区が分區する。
保土ヶ谷区役所が川辺町2-19（現在の場所）に移転。
- 1970 横浜国立大学が常盤台地区へ移転。その後、順次学部も移転。
- 1972 市電、トロリーバスが全線廃止され、最後の花電車が運行。
- 1974 保土ヶ谷バイパスが開通。
- 1977 区のシンボルマークを制定。
- 1980 狩場町に環境事業局保土ヶ谷工場が完成。
保土ヶ谷プールと老人福祉センター狩場緑風荘が開館。
- 1981 ほとがや地区センター、ほとがや希望の家が開館。
- 1982 保土ヶ谷公会堂・保土ヶ谷図書館が開館。
- 1986 西谷地区センターが開館。
- 1987 横浜水道記念館が開館。



- 1989 初音が丘地区センターが開館。
保土ヶ谷スポーツセンターが開館。
市制100周年を記念して区の花(すみれ)と鳥(カルガモ)を制定。
- 1990 横濱ビシネスパーク第一期工事が完成。
高瀬神奈川3号狩場線が開通。
環状2号線(羽沢地区)が暫定開通。
横濱市岩間市民プラザが開館。
- 1991 相模いわまワークス・保土ヶ谷区国際交流コーナーが開館。
県立保土ヶ谷公園内に「かながわアートホール」が開館。
区の色(ほしとがやグリーン)を制定。
- 1992 上音田地域ケアプラザが開館。
- 1994 川島町公園こどもログハウスが開館。
川辺公園の親水護岸が完成。
- 1996 岩崎地域ケアプラザが開館。
保土ヶ谷区防災計画を策定。
- 1997 「保土ヶ谷区防犯計画」を策定。
環状2号線が開通。
- 1998 「ほしとがや花徽章」を制定。
かながわゆめ国体が開催。
- 1999 今井地区センター・今井地域ケアプラザが開館。
- 2000 分区以来はじめて人口が20万人になる。
横濱市西部地域療育センターが開設。
複合施設「かるがも」が開館。
- 2003 障害地域活動ホーム「ゆめ」が開館。
- 2004 「くぬぎ台小学校コミュニティハウス」が開館。
市民活動支援センター(アワーズ)が開館。
- 2006 仏向地域ケアプラザが開館。
保土ヶ谷区が区制80周年を迎える。
- 2007 区の歌(わがまち、保土ヶ谷)と区の木(高木・シイノキ、中低木・ハナモモ)を制定。
まちかと博物館がオープン。
「今井川プロムナード」が開通。
- 2009 横浜開港150周年を迎える。
常盤台ケアプラザ・常盤台コミュニティハウスが開館。
たちほとがや(重度身体障害者生活支援施設)が開所。
APRCが開館。
- 2011 たちほなの丘公園保土ヶ谷区側がオープン。
川島地域ケアプラザが開館。
東日本大震災が起きる。
- 2013 横浜国立大学と連携協力協定を締結。
横浜市の初協働契約が「ほしとがや人・まち」文化振興会と締結され、市民協働事業として実施することになる。
- 2014 星川中央公園多目的広場がオープン。
星川中央公園が全面オープン。
- 2016 区制90周年を迎える。
- 2017

ご協力者・作成関係者一覧

ご協力いただいた方々

地区連合町内会

- 保土ヶ谷地区連合自治会
- 保土ヶ谷南部地区連合自治会
- 保土ヶ谷中部地区連合自治会
- 保土ヶ谷東部地区連合自治会
- 保土ヶ谷西部連合自治会
- 新桜ヶ丘地区連合自治会
- 権太坂境木地区連合自治会
- 岩井町原連合町内会
- 岩間地区連合町内会
- 中央連合町内会
- 中央東部地区連合町内会
- 和田・釜台地区連合町内会
- 上星川地区連合町内会
- 常盤台地区連合町内会
- 川島東部連合町内会
- 仏向地区連合町内会
- 川島原地区連合会
- 西谷連合町会
- 上新地区連合自治会
- 上菅田地区連合自治会

写真提供

- 内田久雄
- 加茂順一
- 高野清
- 山本勝三
- 植松弘保（保土ヶ谷区民写真展実行委員会相談役）
- 横溝高一（ほどがや人・まち・文化振興会）
- 青木敏彦（区の歌合唱団団長）
- 相模鉄道株式会社
- 野村不動産株式会社
- 横浜市史資料室
- 横浜市水道局西谷浄水場

取材協力

- 株式会社アーチ
- チエコオフィス
- 有限会社 FAIR WIND music
- 株式会社高樹一生事務所
- 小松成美
- 松井麻希子
- 石塚英彦
- プロレスラー KAI

保土ヶ谷区制90周年記念誌 つながり〜ほどがやの人・まち・歴史〜

- 〔発行日〕 平成29年10月
- 〔発行〕 横浜市保土ヶ谷区役所 〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町2-19 (a)045-1334-6262
- 〔企画・編集〕 保土ヶ谷区制90周年記念事業実行委員会広報・啓発等部会
- 〔印刷〕 株式会社横濱大氣堂

保土ヶ谷区制90周年記念事業実行委員会 広報・啓発等部会

部会長 山崎 滋 保土ヶ谷区社会福祉協議会会長

委員 板橋 悟 保土ヶ谷交通安全協会会長

軽部 紘一 横浜保土ヶ谷ロータリークラブ会長

中村 克明 横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ会長

五十嵐 公 ほどがやガイドボランティアの会長

江溯 武雄 保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会会長

山口 勝 保土ヶ谷区獣医師会会長

近藤 博昭 武相宿場連携まつり実行委員会代表

相馬 秀剛 日本郵便株式会社保土ヶ谷郵便局

平嶋 俊之 相模鉄道株式会社総務担当課長

須藤 理恵 JR東日本保土ヶ谷駅駅長

陪席 荒川 祐輔 株式会社ミュー

天然温泉満天の湯(モリヤマグループ)

事務局 山本 実 保土ヶ谷区政推進課長

石津 雄一郎 保土ヶ谷区政推進課広報相談係長

福田 真里奈 保土ヶ谷区政推進課広報相談係

春原 咲 保土ヶ谷区政推進課広報相談係

安室 愛 保土ヶ谷区総務課予算調整係長

奥村 彩野 保土ヶ谷区総務課庶務係

製作会社 株式会社フロッグカンパニー